

令和6年度
スポーツツーリズム推進のための実証事業
事業実施報告書



2025(令和7)年3月

国土交通省九州運輸局 観光部

<u>事業目的及び内容</u>	P2
-----------------------	----

<u>受入方策の作成</u>	P8
----------------------	----

戦略会議の開催

・第一回戦略会議	P16
・第二回戦略会議	P23
・第三回戦略会議	P33
・第四回戦略会議 ※受入方策実施後開催	P117

受入方策の実施

(Ⅰ)大会車列等からの観戦	P41
(Ⅱ)フィニッシュエリアでの観戦	P44
(Ⅲ)レース実況の多言語化	P62
(Ⅳ)サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアーの実施…	P84

<u>効果検証および今後の展開について整理</u>	P127
---------------------------------	------

事業目的及び内容

■ 事業目的

九州では、スポーツツーリズムをインバウンド拡大のための主要施策のひとつとしており、これまで多くの国際大会等が開催されてきた。これら取組みの地域経済への効果をより高めるためには、スポーツイベントと掛け合わせる地域資源を磨きあげるとともに、スポーツイベント自体についても、訪日の主目的となるよう高付加価値的に魅力向上を図る必要があるが、スポーツイベントと言っても開催形式(屋内・屋外など)が異なり、魅力向上策もその特徴を踏まえながら進める必要がある。令和5年度、福岡県、熊本県、大分県などで構成されたツール・ド・九州実行委員会及び(一社)ツール・ド・九州によりUCI(国際自転車競技連合)公認のサイクルロードレース「ツール・ド・九州」が上記3県をステージとして初めて開催された。3県で観戦者数約88,000人を記録するなど、大いに盛り上がりを見せ、今年度も福岡県、熊本県、大分県を舞台として「ツール・ド・九州2024」が10月11日から同14日まで開催されることが決定し、今後も開催地域を増やしながら継続して開催される予定である。

本事業では、九州を代表するスポーツイベントの1つである「ツール・ド・九州」の効果的な観戦手法及び情報発信手法(以下、「受入方策」という)を検証することで、「ツール・ド・九州」を訪日外国人旅行者にとってより魅力的なイベントに磨き上げるとともに、その手法を似た形式の他スポーツイベントへ横展開することを検討することで、「サイクルアイランド九州」、ひいては「スポーツアイランド九州」を確立することを目的とする。

■ 事業の項目

- (1) 受入方策の作成
- (2) 戦略会議の開催
- (3) 受入方策の実施
- (4) 効果検証および今後の展開について整理

受入方策立案

1. 受入方策の作成

訪日外国人旅行者にとって、「ツール・ド・九州」観戦が、主目的となるよう受入方策を各県1つ以上、以下の点に留意して作成する。

- ・ターゲット(対象国や年齢、属性など)
- ・受入方策の具体的内容、その狙い及び根拠
- ・実施場所詳細(福岡県、熊本県、大分県のどの場所で開催するか等)
- ・実施終了までのスケジュール
- ・実施にあたって必要となる調整、調整相手方及び調整の見込み

課題整理検討

2. 戦略会議の開催

受入方策の有効性や他のより効果的な受入方策について、外国人目線で確認・検討するとともに、実際の受入方策を体験した上で、さらなる磨き上げに繋げるため、戦略会議を開催する。構成員は下記通りとする。

- ・サイクルイベント、ツーリズムに精通した外国人を含む有識者5名程度
 - ・福岡県、熊本県、大分県、(一社)ツール・ド・九州及び九州運輸局
- ※戦略会議は4回以上、うち2回以上実地開催

実施

3. 受入方策の実施

受入方策の実施及び戦略会議の開催にあたって、ツール・ド・九州2024において、戦略会議構成員立ち会いの下、実施する。海外に向けた情報発信についても、戦略会議で決められた時期、方法などにより実施する。

- (i) 大会車列等からの観戦
- (ii) フィニッシュエリアでの観戦
- (iii) レース実況の多言語化
- (iv) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアーの実施

検証

4. 効果検証および今後の展開について整理

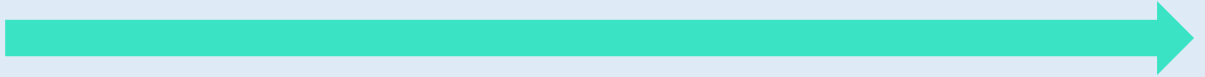
本事業の効果的な観戦手法及び情報発信手法について、効果検証を定量的かつ定性的に実施し、今後、似たスポーツイベントへの展開に参考となるように整理すること。

■ 事業スキーム

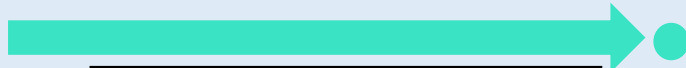
事業の目的達成に向け、関係先との調整を図り事業を推進した。



全体

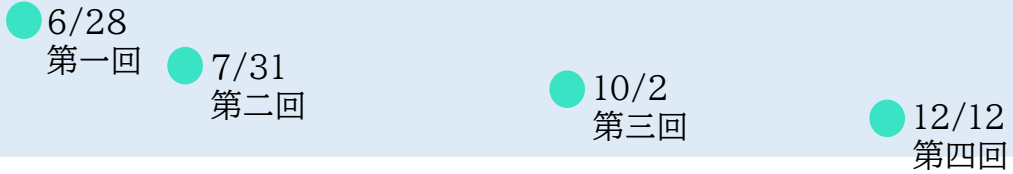


受入方策
立案



事務局作成の受入方策案を元に
3回の戦略会議で実施内容を検討

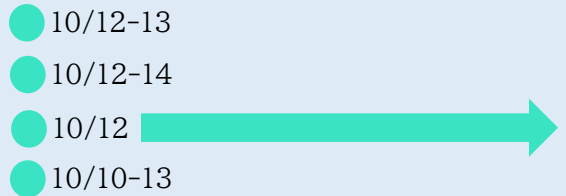
戦略会議



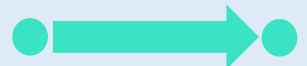
受入方策
実施

受入方策成果発表を
中心に開催

- (i) 車列等観戦
- (II) フィニッシュエリア観戦
- (三) 多言語化配信
- (IV) モニターツアー



取りまとめ
効果検証



報告書提出

■ 事業推進体制

事業の目的達成に向け、戦略委員6名を選定(内、外国人3名)、また、福岡県、熊本県、大分県、(一社)ツール・ド・九州及び九州運輸局と連携し、効果的な事業推進について検討を重ね、取組みを進めた。

《戦略会議メンバー》

福岡県

熊本県

大分県

(一社)ツール・ド・九州

九州運輸局

受託
(事務局)

株式会社 TKUヒューマン

担当	氏名
統括責任者	(株)テレビ熊本 取締役 井澤 利治
業務責任者	次長 福間 陽介
実務者	(株)テレビ熊本 事業アドバイザー 升本喜之

他5名

《戦略委員》

ニック・サーズ 氏

アマンディーヌ近藤 氏

蓋奇雨 氏

山田大五朗 氏

三好礼子 氏

飯島誠 氏

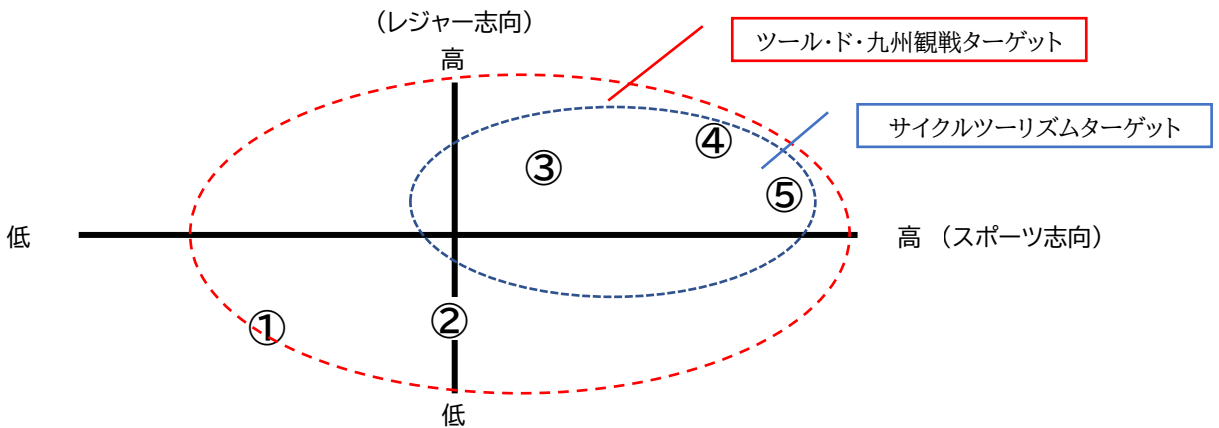
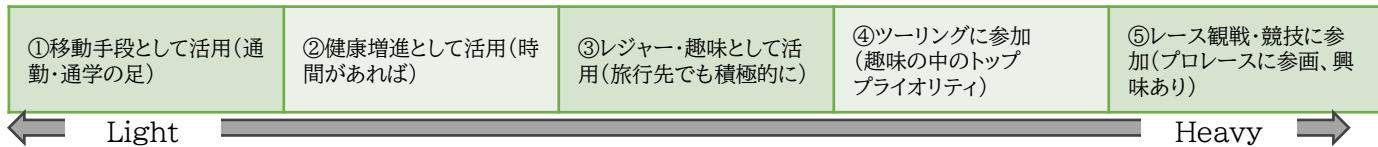
	<p>ニック・サーズ 氏 出身国:カナダ 九州在住30年 外国人に九州の魅力を発信するメディア「Fukuoka Now」を運営。SNSやYouTubeで情報発信。</p>
	<p>近藤アマンディーヌ 氏 出身国:フランス 日本在住10年 15歳から20歳まで自転車競技に取り組む。2児の母、趣味でサイクリングを楽しむ。</p>
	<p>蓋奇雨 氏 出身国:中国 日本在住6年 IMS Group(本社:東京都)勤務。日本国内において中国人を対象にしたサイクリングツアーの企画・運営に携わる。</p>
	<p>山田大五郎 氏 福岡県在住 Bike is Life代表、サイクルコーディネーター 21歳で渡仏しフランスのクラブチームに在籍。3年連続で日本代表として世界選手権出場、サイクルイベントの主催等を行う。</p>
	<p>三好礼子 氏 福岡在住 九州日仏学館勤務。ツール・ド・九州2024では、フランスチーム「トタルエナジー」の通訳を務める。</p>
	<p>飯島誠 氏 東京都在住 チームブリヂストンサイクル所属 トラックレースでは3度のオリンピックに出場。ツール・ド・九州では、第一回大会からレースの解説を務める。</p>

1. 受入方策の作成

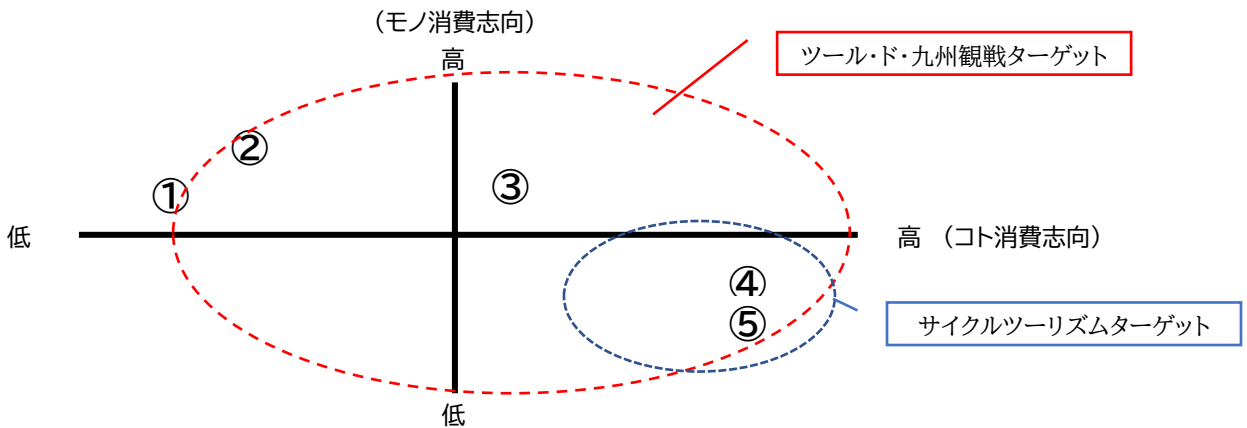
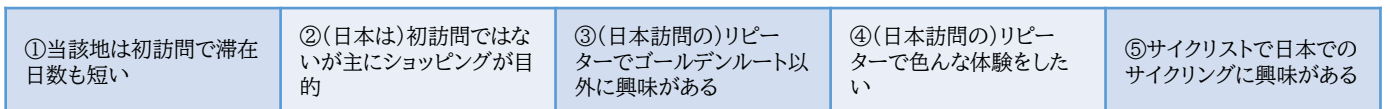
1. 受入方策の作成 – ターゲット

「ツール・ド・九州」がマーケットでの知名度浸透、イベントクオリティ、そして何よりもエンターテインメントとしての価値が認知されることによって、関わるファン層のターゲットは格段に拡がり、多くの経済効果をもたらす真の国際スポーツイベントに昇華していく大きな可能性を秘めている。また、サイクルツーリズムはその親和性、シナジー効果の高さ故に並走して推進すべきであるものとする。一方、「ツール・ド・九州」の潜在的なファン層・観戦層は日頃自転車に慣れ親しんだサイクルツーリズムのターゲット層よりも広範囲で捉えられるべきものであり、むしろ「ツール・ド・九州」のファン層になってもらった後にサイクリスト=サイクルツーリズムに移行する可能性も踏まえて本事業のターゲットを設定する。

■ 日常における自転車活用の頻度・深度の分類例 (主に日本人)



■ 観光/旅行におけるツーリストの志向性の分類例 (主に外国人)



1.受入方策の作成 – ターゲット

受入方策実施の対象国は下記を想定し、「ツール・ド・九州2024」への誘客による実証、サイクルアイランド九州の確立に向けたマーケティングを実施する。

※ターゲット国については、戦略会議の意見や関係先との調整の中で、柔軟に変更対応する。

想定対象国	航空路線	①九州への直接 入国者数(人) [2023年累計] [14条入国者除く]	②九州への延べ宿 泊数(人泊)	③在留人口/国別 (人) 2023年6月時点	体験型コンテ ンツに対する 価値観	ツール・ド・ 九州2023 へのチーム 参加
			2023年間累計	全国		
			2023年10月	九州		
アメリカ	九州への 直行便なし	54,080	223,710	62,425	◎	×
			21,830	3,489		
カナダ	九州への 直行便なし	17,501	41,480	11,242	◎	×
			5,780	661		
オーストラリア	九州への 直行便なし	18,824	71,830	10,649	◎	Ara Skip Capital
			8,180	556		
フランス	九州への 直行便なし	6,055	36,860	15,054	◎	×
			3,880	600		
台湾	◎	383,051	1,070,640	60,220	○	×
			122,230	2,263		

データ元:①②九州観光機構 ③総務省

対象国	対象国に選定した理由/状況・特性・仮説等
アメリカ	英語を母国語とする3カ国として括る。北米2カ国については2028年には市場規模が950億米ドル以上と言われるアドベンチャーツーリズムの本場であり、欧米豪圏の中では九州への訪問者、居住者も多く、交流が盛んであり、観光客・在留人間わず素材としてのツール・ド・九州、サイクリングは訴求出来ると考える。 オーストラリアは地勢上九州と近く、また九州への直行便は途絶えているものの、シンガポールや台北経由等時差のない縦の移動で、九州としてインバウンド観光客を誘致したい国である。また、オーストラリア自体の観光客誘致戦略でサイクルツーリズムの位置づけが高いことから、今後ツール・ド・九州、またはサイクリングを訴求のフックとしたい。
カナダ	
オーストラリア	
フランス	サイクリススポーツ、サイクルツーリズムの地位が社会で確立された世界でも有数のサイクル先進国であり、併せて古来日本文化への造詣も深い。また近年では日本のアニメに対する熱狂的なファン層が多いことで知られ、サイクルレース観戦、サイクルツーリズム、アニメ聖地巡りと多様な切り口で九州へ誘客出来る可能性を挙げたい。
台湾	地勢上九州に非常に近く、双方の親和性が高い。熊本県のTSMC開業によって益々九州・台湾間の人流活発化は必至であり、九州在留・移住者増も見込めること、そして元来サイクル熱が非常に高い国柄であることを踏まえて、ツール・ド・九州、並びにサイクリングを定着させたい。

1.受入方策の作成 – 具体的内容

訪日外国人旅行者にとって、「ツール・ド・九州」観戦が主目的のひとつとなるように受入方策を各県1つ以上実施する。事務局から、以下7案を提案する。

※実施内容については、戦略会議を経て決定する。

1. 以下を実証するコンテンツを実施するものとする。
 - ①観戦者にとって価値のあるもの、利便性を享受できるもの
 - ②ツール・ド・九州観戦を目的とする旅行のフックになる環境整備と情報発信
 - ③今後、マーケットで高付加価値・高額で事業者が利益を享受出来る販売可能な商品
 - ④将来的な持続可能性
 - ⑤映像配信時の多言語化
2. コンテンツの設定のみならず、対象国からのモニター観戦者を誘客し、設定したコンテンツの実証を行う。
3. 上記2においては本事業の趣旨が当年度に外国人観戦者の絶対数を稼ぐ事ではないと理解し、実証のための質に拘ります
4. 上記2で誘客した外国人の意見を回収するアンケートを実施する。

No.	実施項目	適用・備考	場所
1	「大会車列から観る迫力満点のツール・ド・九州」	レース中、車列の中の大会車両を利用して車列の中から選手と同じスピード感で楽しんでもらう	3会場
2	フィニッシュエリアでの観戦ゾーン設置	実際に観戦訪問する外国人を対象にカスタマイズした観戦スペースを設置する	3会場
3	レース実況の多言語化	配信する実況映像(地上波、You Tube、会場スクリーン、パブリックビューイング)の多言語化を実施する	共通
4	外国人観戦者対象のデジタルアンケート実施	観戦者用アンケートを多言語化したものを作成・実施する	共通
5	サイクルカーゴ利用によるサイクリングモニターツアー	サイクルカーゴ利用による観戦+サイクリング	大分 熊本
6	九州在住外国人に向けた情報発信	Fukuoka Nowのデジタル媒体、戦略会議委員のSNS	—
	<以下、条件つき実施>		
7	「ヘリコプターから楽しむツール・ド・九州」	映像空撮用のヘリコプターが飛行しない場合、限定的に実施する	熊本

1.受入方策の作成 – 具体的内容

大会車列等から観戦

持続可能な高付加価値のオプションツアー開発・検証

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者、サイクリングモニターツアー参加者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングモニターツアー参加者
- ③台湾から観戦目的の観光客

■具体的な内容

レース本番の競技自転車列の中を走行する大会車両(4輪車)座席に乗車してもらい、選手と同じ目線とスピード感でレースの迫力を間近で堪能してもらう人数限定の特別なオプションツアー

*各ステージ2名限定

■実施場所

3ステージ全てを対象とする(クリテリムは実施しない)

■スケジュール(イメージ)

該当するレース3日前までに本事業運営事務局(TKUヒューマン)に申し込み

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・(一社)ツール・ド・九州及び大会運営受託事業者と協議・調整する
- ・オプションツアーとして設定し、初回は原価5,000円、売価10,000円で関係者と協議・調整する
- ・最終的な価格設定は戦略会議にて議論・決定し、今後の商品化の是非を検証する
- ・場合に応じて、参加者は戦略会議委員とする場合もある
- ・ツアー主催者はTKUヒューマン(*)とする
- ・万が一の事故に備えてツアー主催者(TKUヒューマン)は参加者向けの旅行傷害保険を掛ける

フィニッシュエリアでの観戦

外国人観戦者に対する高付加価値サービスの検証

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者、サイクリングモニターツアー参加者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングモニターツアー参加者
- ③台湾から観戦目的の観光客

■具体的な内容

外国人属性・特性に沿って、各ステージのフィニッシュエリアにて専用観戦ゾーンを設け、観戦者にとって価値のある地元産品を使った食事を提供したホスピタリティの実践、また実況解説音声の自国語への翻訳字幕または通訳音声を提供する

<提供食事の例(宗像)>

観戦エリア”道の駅むなかた”にて…地の海鮮物による寿司、宗像牛
他地区も同様に地元自治体、観光連盟と協議の上提供物を決定

■実施場所(想定)

- ・上記ターゲット①②③…10/14 福岡ステージ(宗像フィニッシュエリア)
- ・上記ターゲット①②③…10/12 大分ステージ(日田フィニッシュエリア)
- ・上記ターゲット①②③…10/13 熊本ステージ(南阿蘇フィニッシュエリア)
- *いずれのステージも実証対象観戦者20名~30名想定

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・サービスを受受する観戦者との調整は上記ターゲット観戦募集の主管者を通じて協議する
- ・サービス提供にあたっての場所設定、飲食提供についてはフィニッシュエリア運営事業者と協議・調整する
- ・提供する食事(地産品)は各県、開催自治体と協議の上、その意向を反映させる
- ・実施詳細については戦略会議で議論・決定する

1.受入方策の作成 – 具体的内容

レース実況の多言語化

外国人観戦者に対する高付加価値サービスの検証

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者、サイクリングモニターツアー参加者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングモニターツアー参加者
- ③台湾から観戦目的の観光客

■具体的な内容

外国人属性・特性に沿って、各ステージのフィニッシュエリアの観戦ゾーンにて、英語を基本とする実況翻訳、或いは通訳によるサービスを提供するものとし、試験的に台湾観戦者を対象とした中国語への翻訳を実施する。サービス提供方式は下記のいずれかとする(重複実施有り)

<想定提供方法>

- ①観戦ゾーンのスクリーン上の字幕(英語のみ)
- ②スマートフォン上の字幕(英語のみ)
- ③スマートフォン上の同時通訳(英語のみ)
- ④専用ヘッドセットの配布(英語・中国語)
- ⑤観戦ゾーンでの実況(リアル/中国語のみ)

■実施場所(想定)

- ・上記ターゲット①②③・・・10/14 福岡ステージ(宗像フィニッシュエリア)
 - ・上記ターゲット①②③・・・10/12 大分ステージ(日田フィニッシュエリア)
 - ・上記ターゲット①②③・・・10/13 熊本ステージ(南阿蘇フィニッシュエリア)
- *いずれのステージも実証対象観戦者20~30名想定

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・戦略会議において外国人視点からの有効性を議論し、決定する。

外国人観戦者対象のデジタルアンケート

ツール・ド・九州全般、サービスに関するマーケティング実施

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングツアーへの参加者
- ③台湾から観戦目的の観光客
- ④観戦来場の外国人
- ⑤熊本会場パブリックビューイングにて観戦の外国人

■具体的な内容

- ・ツール・ド・九州全般、九州に対する印象、滞在日数、消費額等のアンケートツールを作成する
- ・アンケート回答者に対しては、ツール・ド・九州ノベルティを提供する(ノベルティは買い取り)

■実施場所(想定)

上記対象ターゲットの観戦場所にて

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・戦略会議において外国人視点からの有効性を議論し、決定する。

1.受入方策の作成 – 具体的内容

サイクルカーゴ利用のサイクリングモニターツアー

大会観戦とサイクリングツアー組合せ商品化の可能性実証

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングツアーへの参加者
- ③その他サイクリスト全般

■具体的な内容

- ・サイクルカーゴ利用で効率的に移動し、大会観戦+サイクリングの双方を商品としてパッケージする
- ・モニターツアー日程例別添
- ・サイクルカーゴチャーター費用を事業費にてサポートした上で参加し易い有料モニターツアーとする
- ・モニター条件は、アンケート回答とSNS発信、モニター謝礼はツール・ド・九州ノベルティ(買取り)
- ・自転車搭載:18台/定員20名

■実施場所(想定)

大分・熊本エリア

■販売・募集チャンネル

- ・Fukuoka Now、戦略会議委員、及びサイクル関係者の口コミ、ネットワーク
- ・ツール・ド・九州公式サイトリンク(主催:TKUヒューマン)

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・以下理由によるサイクルカーゴの手配スタック(5/10現在)
「佐賀国民スポーツ大会と時期的が重なる事によるドライバーの不足を理由に、バス会社が10-11月の新規 受付を停止している状態」 *上記理由により現時点でサイクルカーゴ未手配

【本件についての要望】

本取り組みは、戦略会議委員候補者との事前協議で複数の委員より取り組みを推奨されており何とか実施したい。弊社で事業受託の場合、ツール・ド・九州2024実行委員会より「ツール・ド・九州関連の輸送枠」としてのバス会社への折衝サポートをお願いしたい。

【サイクルカーゴが手配出来ない場合の代替案】

大型バス+トラック(自転車輸送用の専用ラック使用)利用にて代替実施する。この場合、募集定員は30名程度

- ・戦略会議において外国人の視点で日程・内容を議論し、決定する。

条件付き実施

ヘリコプターから楽しむツール・ド・九州

持続可能な高付加価値のオプションツアー開発・検証

■ターゲット

- ①日本在住で欧米豪(英語圏)に国籍を持つ観戦者
- ②日本在住のフランス人(ヨーロッパ人)で観戦、サイクリングツアーへの参加者
- ③台湾から観戦目的の観光客

■具体的な内容

- ・ヘリコプターから俯瞰したレース、周辺の景観を楽しんでもらう
- ・ヘリコプターは実施エリアにある既存事業者を利用し、事業者としての継続実施の実証を行う

■実施場所(想定)

- *既存事業者のある以下1か所での実施とする
- ・10/13 熊本ステージ

■実施にあたっての調整方法、課題等

- ・映像空撮用ヘリコプターが上記地区において飛行する場合、空域の安全面から本件は実施しない

2. 戦略会議の開催

2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議

開催日時

6/28 (金) 10:00~12:45

開催場所

《戦略会議》メルキュール福岡宗像リゾート&スパ

《現地視察》福岡ステージ 岡垣町観戦エリア、宗像大社フィニッシュエリア付近

出席者 ※順不同、敬称略

ニック サーズ	戦略委員	
近藤 アマンディーヌ	戦略委員	
三好 礼子	戦略委員	
山田 大五朗	戦略委員	
飯島 誠	戦略委員	
仲谷 隆造	戦略会議メンバー	(一社)ツール・ド・九州
大坪 元気、向井 雄哉、 亀澤 さや香、堀 新子	戦略会議メンバー	福岡県
菅 優鷹	戦略会議メンバー	大分県
工藤 健裕	戦略会議メンバー	熊本県
西脇 考志、田中 敏也、嶋田 淳一、大槻 伊織	戦略会議メンバー	九州運輸局
	事務局	(株)TKUヒューマン、 (株)テレビ熊本

議事内容

- 1.本事業の趣旨・背景について
- 2.戦略委員自己紹介
- 3.ツール・ド・九州について 2023大会振り返り、2024大会概要説明
- 4.意見交換 受入方策 観戦ゾーンの作りこみ、観戦方法、多言語化について

戦略会議 議事録

1.本事業の趣旨・背景について

西脇考志 氏 本実証事業の趣旨、背景についてまずご説明いたします。九州におきましては、スポーツツーリズムがインバウンド拡大のための重要な施策のひとつと考えています。ここ数年、多くのスポーツ大会が九州で開催されております。スポーツイベントの地域経済の効果をより高めるためには、イベントと掛け合わせて地域資源を磨き上げることや、イベント自体が来訪の目的となるよう、魅力向上を図る必要があります。昨年10月に、福岡・熊本・大分で開催されましたツール・ド・九州2023大会におきましても、3県で観戦者が88,000人と大いに盛り上がりを見せたところで、今後も地域を増やしながらかつて継続して開催される予定となっております。本事業におきまして、ツール・ド・九州の効果的な観戦手法、情報発信手法を検証することで、この大会が訪日外国人旅行者にとって、より魅力的なものとなるよう磨きあげをして、他のスポーツイベントにも横展開することで、サイクルアイランド九州、スポーツアイランド九州を確立することを目的としています。この戦略会議におきましては、多面的な観点から議論をしていただける方、そして情報発信していただける方、また福岡県・熊本県・大分県、大会を運営されるツール・ド・九州事務局の方にも参加いただき、実施内容の磨き上げにかかっていきたいと思っております。

2.戦略委員自己紹介

近藤アマン
ディーヌ 氏 15歳から20歳まで自転車スポーツをしていました。日本に来て10年ぐらいになります、お役に立てれば嬉しいです。

ニック・サース
氏 カナダ出身、九州に住んで30年になります。フクオカ・ナウというメディアで、外国人に九州の魅力を情報発信しています。九州には大きな可能性がありま
す、ツール・ド・九州を成功させて、世界的に人気なイベントにしたいと思いま
す。

2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議

三好礼子 氏 昨年大会、オフィシャルサポーターとして、アスタナチームに同行しました。私自身は山田さん(委員)のおかげで、スポーツバイクに乗った喜びを知っていますし、通訳ガイドの資格を持っていますので、九州の魅力を発信していくのも使命と思っています。

山田大五郎 氏 私自身は、ツール・ド・九州の検討委員会の時から関わらせていただいております。元々プロのライダーでもあり、2年ほど留学していてレースの経験もあります。

飯島誠 氏 私は、自転車メーカーとして、また元オリンピックの立場から皆様と一緒に九州の方を盛り上げたいと思います。

3.ツール・ド・九州について

事務局 九州運輸局からの説明にもありました通り、本事業は、インバウンドを取り込むために、スポーツイベントとしての観戦手法の確立と効果的な情報発信手法を検討することを目的としています。サイクルツーリズムでどこの国から何名を呼び込むとか、数でKPIを設定して事業を成功させるというものではございません。戦略委員の皆様は、いろんな観点で広く浅く、偏りがないように選定させていただきました。今回の第一回会議で主に議論いただきたいのは、フィニッシュエリア、観戦エリアでゾーンを設置して、観戦環境を作るためには何が必要かという点です。それぞれのステージで状況が違いますので、それぞれのステージの特性に合ったゾーン設定をしたいと考えています。ボリューム感としては、20名から30名の方が特定のゾーンに入っていただくイメージです。もう一点、多言語化の手法についてですが、まず英語そして第3言語として中国語の多言語化を検討しています。こちらについてもものちほど議論いただきたいと思います。その他、受入方策として、サイクルカーゴを使ったモニターツアーの無償提供も考えていますが、こちらは第二回以降に議論したいと思います。

2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議

仲谷隆造 氏	コース自体はすでに公式サイトに公開しています。スタート・フィニッシュの時間は、7月3日に公開する予定です。現在発表している中でワールドチームは2チーム、まだ海外のトップチームを呼ぶ可能性はあります。
大坪元気 氏	今回、福岡ステージでは、9周半周回するポイントがあり、ここ(岡垣町八幡屋前、ぶどうの樹ワイナリー前)に観戦エリアを設置いたします。
菅優鷹 氏	大分県は昨年と同じ賑わい会場になります。昨年は最終日ということもあり、多くの方にお越しいただきましたが、今年はステージ1日目ということで、どう動くかなと思っています。
工藤健裕 氏	今年は、ゴールが南阿蘇村役場に変更しまして、いろいろ制限もあるかと思っています。

4.意見交換

ニック・サーズ 氏	まずは、海外からの参加チームが決まり次第、九州在住の参加チームの国の人たちにプロモーションが必要です。あとは、外国人にコミュニケーションを図るとなると、早く情報提供することが大切です。食べ物はデパ地下のような、食材を見て分かるような試食できるサービスがあればよいです。ベジタリアンの方たちも多くいます。ツール・ド・九州がSDGsを大切にしているのであれば、ゴミを出さない工夫が必要です。その他、友達に聞いてみたところ、日本のファッション、日本らしいサイクリンググッズ、海外のサイトで買えないようなものを販売すればよいと言っていました。フリーマーケットにしてもよいのではないか。その他、観戦にはアルコールもあった方がよいと思います。あとは、当日コースの一部を走れるような企画ができればよい。
近藤アマンディーヌ 氏	日本の祭りのような雰囲気になればよいと思います。日本に来る人は、九州の魅力を感じたい、食べ物を楽しみたい、クローズドの空間にするのではなく、沿道で横の人たちと親しむように観戦したい。外国人は自分の国のチームが参加していなければ、あまり観戦には来ないと思う。
三好礼子 氏	沿道でピクニックをしながら日本風楽しむことがよいのではないかと、家族でピクニックしながら選手を待つという。あとは、導線を考えてあげることが重要。周回コースの観戦エリアで観た人がフィニッシュエリアに行くにはどうすればよいか。食べ物はしっかり用意しなくても、屋台風を選択できる形にすればよいのではないかと。ビールやワインを飲んで地元の人と交流することが楽しい、海外の人が固まるのではなく、地元の人と情報交換できることが楽しい、地元住民の人たちにおいしい魚の店を聞いて翌日行ってみようとか、横に広がるのが観戦の来やすさにもつながると思う。ゾーンで囲んで、カゴの中の鳥にしても面白くない。

2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議

山田大五郎 氏 ツール・ド・フランスでも囲ってはいない、キャラバンを取り入れられたら面白い。フランスでは、キャラバンで先行して車が来て、キャラクターグッズを配って子供たちを喜ばせるという手法を取り入れている。あとは、スムーズな情報提供、情報取得方法を明確にしておくことが大切。よくあるのが、自転車競技はその瞬間は面白いけど、前後が全く分からなくて、次来るまでどうすればよいか分からないということになる。なるべく動画視聴の方までスムーズに誘導してあげること、QRコードを載せたうちわや旗を配るというのもひとつ。ビジョンを設置すること、Wi-Fi環境を整えることも大事かもしれない。

事務局 多言語化についてテストを進めている、現状では、音声信号を抜き取って、日本語のテキストを英語のテキストにする。それをYouTubeの字幕機能として5秒遅れぐらいで送出すことができる。もうひと言語、中国語を想定しているが、こちらの言語はQRコードを使って案内する、スマートフォンでの視聴を想定しています。画面上に文字が多く出て見づらくなるのではないかと思うので、文字のバランスを考えないといけない。英語の字幕を中国語の字幕に切り替えるというわけではなく、別チャンネルになります。

飯島誠 氏 ツール・ド・九州の最終的なゴールではないですが、インバウンド含めて多くの方に来てもらうことが大事、自転車レースを観るために足を運ぶということが、日本の文化としては成り立っていない。ライト層、家族連れや年配の方に足を運んでもらう会場作り、インバウンドにも楽しんでもらえるよう、お祭りやっている、よく見たらロードレースもやってるじゃん、楽しそうというぐらいのコミュニティが出てくるぐらいになればよいかなど。ツール・ド・フランスは多くの方は観戦目的で来ているが、一方本当にお祭りが好きで、いつのまにかレースは通りすぎたなどというぐらいの感覚の人も多くいる。そんな雰囲気各会場で出せばいいなと思う。

ニック・サーズ 氏 多言語化は早めにテストをした方がよい。AIの通訳は非常に技術的にも進化してきているのでおそらく問題はないと思うが、AIで不満足な場合は、NHKワールドでも日本でのサイクリングを担当をしている日本在住の元プロサイクリストを雇って、直接ライブ解説を行うことも不可能ではありません。

2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議

西脇考志 氏

本実証事業の中でやれること、そうでないことはありますが、貴重な意見をいただきました。今後のツール・ド・九州の在り方を検討する上で大変参考になります。

仲谷隆造 氏

お祭り感を出さなければいけないということは去年から思っていることです。YouTubeを音だけで楽しんでいる人がいるということも伺いましたので、動画をじっと観るより、音で楽しませることも大事かなと。キャラバンはやりたいところではあるが、スポンサーの兼ね合いもあり考えないといけない。ツール・ド・フランスは、レース時間と横にちゃんとキャラバンが走る時間も書いてある。

現地視察

【実施内容】

- 実施時間...11:30～12:45
- 視察場所...福岡ステージ 岡垣町観戦エリア、宗像大社フィニッシュエリア付近



2.戦略会議の開催 6/28 第一回戦略会議を受けて

第一回戦略会議の戦略委員・メンバーの主な意見は下記通り。事務局の方で、第二回戦略会議までに下記点について検討する。

【戦略委員・メンバーの主な意見】

- 参加チーム国の外国人、特に九州在住の方に観戦いただけるよう早めの情報提供。
- フィニッシュエリアにおける食事の提供は有効だが、観戦エリアをゾーニングするのではなく、地元の観戦者とコミュニケーションを取りながら、自由に食事を楽しむ観戦いただくスタイルがよい。
- 食事はベジタリアンやハラール対応のものも検討した方がよい。
- 食事の提供だけでなく、フリーマーケットやサイクリングアパレル販売などがあると楽しい。地元の方と交流するお祭り感があるとよい。
- 多言語化に関しては、日本語実況・解説の直訳でなく、多言語(英語)オリジナルの実況・解説を検討してみてはどうか。
- 福岡ステージは、主な観戦エリアが周回コースとフィニッシュエリアの2か所ある。周遊して観戦いただけるよう導線を検討した方がよい。

【事務局検討事項】

- 大会前までの情報発信手法を検討。
- フィニッシュエリア(福岡は周回コース含めて)の観戦手法について、開催各県と検討。
ミールクーポン、サイネージの取り扱い、多言語化対応観戦マップ。
- 多言語化については、文字だけでなく音声も対応可能か、音声も対応するならば多言語オリジナルの実況・解説についても検討。
- サイクリングモニターツアーの具体案検討。

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

開催日時

7/31 (水) 10:30~16:30

開催場所

《サイクリング実証》瀬の本レストハウス～城山展望
《現地視察》熊本ステージフィニッシュエリア(南阿蘇村役場)
《戦略会議》南阿蘇ICT交流センター

出席者 ※順不同、敬称略

ニック サーズ	戦略委員	
近藤 アマンディーヌ	戦略委員	
三好 礼子	戦略委員	
山田 大五郎	戦略委員	
飯島 誠	戦略委員	
蓋 奇雨	戦略委員	
仲谷 隆造	戦略会議メンバー	(一社)ツール・ド・九州
大坪 元気、向井 雄哉、 亀澤 さや香、堀 新子	戦略会議メンバー	福岡県
菅 優鷹	戦略会議メンバー	大分県
工藤 健裕	戦略会議メンバー	熊本県
西脇 考志、田中 敏也、嶋田 淳一、大槻 伊織	戦略会議メンバー	九州運輸局
	事務局	(株)TKUヒューマン、 (株)テレビ熊本

議事内容

- 1.事務局 受入方策(案)説明
- 2.意見交換・多言語化対応について
 - ・観戦エリアにおけるミールクーポン、サイネージ、マップの扱いについて
 - ・サイクリングモニターツアー案について

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

サイクリング実証

【実施内容】

- 実施時間 ...11:10～12:30
- 実施コース...瀬の本レストハウス～城山展望所 約14キロ
- 参加者 ...戦略会議委員5名、戦略会議メンバー(九州運輸局)4名
サイクリングガイド:中尾公一 氏(道の駅阿蘇サイクルアドバイザー)



2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

現地視察

【現場視察】

実施時間...14:30～15:00

実施場所...熊本ステージフィニッシュエリア:南阿蘇村役場周辺



2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

1.事務局 受入方策(案)

第一回戦略会議の意見を受けて、関係各所と調整を図り、受入方策について、下記を事務局案として提示する。

フィニッシュエリアでの観戦

①提供サービス

観戦場所

- ・フィニッシュエリアを基本とし、別途観戦ゾーンがある場合、回遊性を考えて設定。
- ・観戦現場での観戦者の自由度と回遊性を担保するため、ゾーニングは行わない。
- ・ゾーニング不要のため、当初想定の観戦モニター数には拘らず、予算内で調整する。

飲食

- ・観戦エリア内に出店する飲食事業者で使用可能な共通ミールクーポンを発行する。
- ・ミールクーポンは5,000円見当とし、アルコール提供の有無等により3,000円見当の2種類とする。
- ・ミールクーポンは紙ベースとする。

会場内案内・誘導

- ・各会場で作成する観戦マップの版下を使用し、英語表記にて多言語化する。
- ・飲食ブース、キッチンカーには、英語表記のサイネージを置く。
- ・各会場に英語対応スタッフ1名を配備する。

②各会場想定

大分ステージ

- ・観戦+サイクリングモニターツアー参加者15名程度。
- ・立命館アジア太平洋大学(APU)学生20~25名。
- ・日田市役所前フィニッシュエリアを対象、ミールクーポン、マップを配布。
- ・APU学生の移動は、別府駅~日田間で往復貸切バス対応。

熊本阿蘇ステージ

- ・観戦＋サイクリングモニターツアー参加者15名程度。
- ・イデアITカレッジ阿蘇留学生10名程度。 ※交渉中
- ・その他、観戦モニター数確保のため交渉。
- ・南阿蘇村フィニッシュエリアを対象、ミールクーポン配布。 ※マップ作成なし

福岡ステージ

- ・福岡県在住外国人40名程度。
- ・岡垣町観戦エリア2か所、宗像大社前フィニッシュエリアを対象、岡垣町観戦エリアのみで使用できるミールクーポンを配布。
- ・参加者は海老津駅集合、貸切バスで観戦エリアを移動する。
- ・貸切バスには、英語対応のガイドを乗車。

③モニター観戦者条件等

- ・本事業で定める観戦時の飲食、移動、その他サービスについては無料とする。
- ・SNSアカウントを有する参加者は、できる限り大会に関する情報発信し、観戦後アンケートに回答する。
- ・謝礼として、ツール・ド・九州公式グッズを提供する。

レース実況の多言語化

第1案

- ・レース実況とは別の副音声で英語実況を行う。
※副音声実況ブッキング中。実施の場合、テレビ熊本放送スタジオ内にブース設置。

第2案

- ・レース実況をAIで英語翻訳し、字幕対応を行う。英語字幕、中国語字幕2チャンネル設定。実施検証済み。
※中国語対応については、中国人モニター参加者数で可否を判断。

サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアーの実施

①日程・行程案

- ・10/10～13の四日間で実施とする。
- ・ツアー期間中、サイクリング、ツール・ド・九州観戦をいずれも2回実施する。
- ・日田では、外国人にも有名な観光地で観光も行う。

②備考

- ・募集人員は15名程度(欧米人10名、中国人5名)、英語対応可能な添乗員同行。
- ・日程表に記載のバス代、宿泊代、食事代はすべて無料。ただし、福岡まで/福岡からの交通費と、サイクリングで使用する自転車レンタル費用は参加者実費。

③モニター参加者条件等

- ・SNSアカウントで情報発信し、ツアー終了後アンケートに回答する。

日次	月日	都市	スケジュール	食事
1日目	10/10	福岡 大分	午後、博多駅発 【泊】ホテル日航大分 オアシスタワー	昼：－ 夜：○
2日目	10/11	大分	ホテルにて朝食 大分駅周辺→瀬の本レストハウス(約60km)をサイクリング 【泊】黒川温泉又はくじゅう	朝：○ 昼：○ 夜：○
3日目	10/12	日田 阿蘇	ホテルにて朝食 進撃の巨人 in HITA ミュージアム 大分ステージフィニッシュ観戦 瀬の本レストハウス→城山展望所(約15km)をサイクリング 【泊】阿蘇リゾートグランヴィリオホテル又は亀の井ホテル阿蘇	朝：○ 昼：ミールクーポン 夜：○
4日目	10/13	南阿蘇 福岡	ホテルにて朝食 熊本ステージフィニッシュ観戦 観戦後、博多駅へ	朝：○ 昼：ミールクーポン 夜：－

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

2.意見交換 - 多言語化対応について

事務局 多言語化については2つ案があります。ひとつは、音声の多言語化です。日本語の配信とは別に、英語または中国語の実況・解説を行います。テレビ熊本に専用のブースを設けて実施します。ふたつめは、日本語のレース実況をAIで翻訳し、YouTube画面上で字幕の対応を行うというもので、こちらは英語・中国語ともに対応可能です。こちらは会場の大型モニターに流すものではなく、モニターの手持ちのスマホやタブレットで観られるものになります。こちら二案に分けていますが、どちらともやるかもしれませんし、一方になるかもしれない、事業費のコストを整理しながら検討します。音声の多言語化については誰が実況・解説をするのかという問題があります。また、音声にしても字幕にしても数秒遅れるということは認識いただく必要があります。

ニック・サーズ氏 字幕のオプションについてはクオリティが気になる。チーム名や選手名など固有名詞がきちんと表示されているかなど。きちんとテストを行った方がよい。生配信ではなく、終了後編集した動画を配信するというのもよいのではないか、きれいな動画の方が見えます。リアルは副音声(英語による実況・解説)にして、字幕は後でよいのではないか。

飯島誠氏 ツール・ド・フランスは配信された映像を各国で音声を入れている。翻訳がおかしいということはある。

事務局 ツール・ド・九州の楽しみ方という動画は制作予定、8分程度のハイライト映像。ハイライトの多言語は取り組みたい。

ニック・サーズ氏 ハイライト映像は、当日アップすることが望ましい。

蓋奇雨氏 有名な方(インフルエンサー、ユーチューバー)にはファンがいる、動画を勝手に使って解説動画を配信している人もいる、有名な方を活用するというのもよいのでは。フォロワー500万人という方もいる。

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

2.意見交換 - 観戦エリアにおけるミールクーポン、サイネージ、マップの扱いについて

- | | |
|-----------|---|
| 事務局 | まず、観戦エリアにつきましては、第一回会議でご意見いただいた通り自由度を確保します。観戦モニターは80から100は確保したいと思います。モニターにお渡しするミールクーポンはひとり5,000円相当を想定、これはアルコール代も含みますので、学生さんには3,000円でもよいかもかもしれません。熊本ステージではアルコール提供はなしとされています。クーポンは紙ベース、各会場にぎわい事業者と調整が必要になります。クーポンは(福岡は一部除外になりますが)一般観戦者用に販売はしません、本事業のモニター用に準備します。メニューの横に、英語や中国語で食べ物の使用材料などを記載したミールサイネージを設置することを検討しています。その他、福岡・大分では多言語化(英語)された会場マップの作成を考えています。 |
| 三好礼子 氏 | ミールクーポンについては、すべてではなく使える店を限った配布でもよいのではないかと。クーポンの裏には、使える店を記載しておけばよい。 |
| 大坪元気 氏 | 福岡ステージでは、ミールクーポンを同じデザインにして、岡垣・宗像すべてのエリアで利用できるようにしようとしている。一般販売はせず、ボランティアに配布予定。福岡ステージでは、こちらのクーポンを購入いただく形でよい。 |
| 菅優鷹 氏 | 大分では、クーポン作成についてにぎわい事業者と調整いただければよい。 |
| 工藤健裕 氏 | 熊本では、キッチンカー8-10店舗予定している、同じくにぎわい事業者と調整いたただきたい。アルコール提供はNG。 |
| 蓋奇雨 氏 | キッチンカーの使用はよいが、一般観戦者がいると並んで時間をとられて結局クーポンを使えないということがある、観戦時間はしっかり確保した方がよい。また、ミールサイネージは必要ではないのではないかと。 |
| ニック・サーズ 氏 | サイネージはあるに越したことはないが、優先度は高くない。 |
| 三好礼子 氏 | 同意見、絶対に必要ということはない。 |

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議

2.意見交換 - サイクリングモニターツアー案について

事務局 サイクルカーゴでのツアーを予定していますが、まだカーゴの利用について
確約が取れていません。ツアー参加者から旅行代金はいただきませんが、
例えば中国から福岡までの飛行機代、これは対象外になります。福岡発着、
いわゆる着地型のモニターツアーです。

蓋奇雨 氏 日本にツアーで来る方は本当にサイクリングを楽しみにしている。今日、最
高に景色のいい阿蘇を走って感じたが、示されているモニターツアーの観
戦+サイクリングの内容は充実していると思う。在日中国人に発信したい。
出発時間や詳細を明確にしてほしい。

ニック・サーズ 氏 九州に来る人はサイクリングをしたいという思いが強い人が多い。このモニ
ターツアーはサイクリングをもっと充実した方がいいと思う。来年に繋がるよ
うなサイクリングツアーに。熊本のサイクリング案(今日体験した)15キロは短
すぎる。観戦のスケジュールもあるが、朝6時スタートにするとか、ミュージア
ム鑑賞をやめてサイクリングに切り替えるとか考えるべきでは。

事務局 漫画『進撃の巨人』の作者が日田出身ということもあり、ミュージアム鑑賞を
入れた。皆さんの走りたい気持ちを優先して、ツアーを練り直したい。

山田大五郎 氏 Wi-Fi環境の整備は特に大事と思う。動画観戦となるとポイントになってくる
と思いますので注意する必要があります。

2.戦略会議の開催 7/31 第二回戦略会議を受けて

第二回戦略会議の戦略委員・メンバーの主な意見は下記通り。事務局の方で、第三回戦略会議までに下記点について検討する。

【戦略委員・メンバーの主な意見】

- 多言語化について、生配信は音声のみでよいのではないか。翻訳がおかしいと気になるので、大会終了後、編集した動画に字幕を入れることを検討してみてはどうか。
- レースのハイライト映像は、当日アップしてほしい。
- 現地で観戦しながら動画配信を視聴する方のために、Wi-Fi環境は整備してほしい。
- 情報発信は有名なインフルエンサーを起用してみてはどうか。
- ミールクーポンは、使用可能店を各県のにぎわい事業者と調整してほしい。
- ミールサイネージは、必ずしもなくてもよいのではないか。
- サイクリングモニターツアーの参加希望者は、もっとサイクリングを充実させたプランにした方がよいのではないか。

【事務局検討事項】

- 多言語化の手法を再検討。
- ミールクーポンの取り扱いを各県のにぎわい業者と確認。ミールサイネージは必要性について再検討。
- 情報発信に外国人インフルエンサーを起用するか検討。
- サイクリングモニターツアーのプランを再検討。

2.戦略会議の開催 10/2 第三回戦略会議

開催日時

10/2 (水) 14:00~15:30

開催場所

九州日仏学館

出席者 ※順不同、敬称略

ニック サーズ	戦略委員	
近藤 アマンディーヌ	戦略委員	
三好 礼子	戦略委員	
山田 大五郎	戦略委員	
飯島 誠	戦略委員	
蓋 奇雨	戦略委員	
赤木 大輔	戦略会議メンバー	(一社)ツール・ド・九州
亀澤 さや香	戦略会議メンバー	福岡県
菅 優鷹	戦略会議メンバー	大分県
工藤 健裕	戦略会議メンバー	熊本県
西脇 考志、田中 敏也、嶋田 淳一、大槻 伊織	戦略会議メンバー	九州運輸局
大川内洋介	戦略会議メンバー	福岡県観光連盟
	事務局	(株)TKUヒューマン、 (株)テレビ熊本

議事内容

- 1.事務局 受入方策(案)説明
- 2.意見交換 ・観戦モニター企画・サイクリングモニターツアーについて
・多言語化対応について
・観戦モニターアンケートについて
- 3.備考

2.戦略会議の開催 10/2 第三回戦略会議

1.事務局 受入方策(案)

第一回、第二回の戦略会議の意見を受けて、関係各所と調整を図り、受入方策について検討課題となっていた点については、下記対応とする。

大会車列等から観戦

大分ステージ

- ・スタートからフィニッシュエリア近くまで実施。
- ・立命館アジア太平洋大学学生1名、職員1名の2名が大会車両に乗車。
- ・終了後、体験した所感を提出。

熊本阿蘇ステージ

- ・スタートからフィニッシュエリア近くまで実施。
- ・戦略委員ニック・サース氏、蓋奇雨氏の2名が大会車両に乗車。
- ・終了後、体験した所感を提出。

福岡ステージ

- ・スタートからフィニッシュエリア近くまで実施。
- ・福岡在住の外国人2名調整中。
- ・終了後、体験した所感を提出。

※福岡ステージについては、安全面を担保できるか大会関係者と協議中。

フィニッシュエリアでの観戦

①ミールクーポン

- ・大分、熊本阿蘇ステージについては、会場で使用できるオリジナルクーポンを作成。使用できる店舗は、各県にぎわい業者が調整、参加者には3,000円分のクーポンを配布。また、福岡ステージは、岡垣町観戦エリア2か所にて使用できるアルコール飲み放題付きの5,000円分クーポンを配布。

②ミールサイネージ

- ・各県にぎわい事業者へのヒアリングで、会場で販売するメニューには英語表記されているものも多いことや、受入方策案の中で優先順位は高くないという戦略委員の意見を受け、本事業では実施しないものとする。

③参加者

- ・3ステージあわせて80名程度参加決定。
(サイクリングモニターツアー参加者重複分除く)

④英語デジタルアンケート

- ・参加者は終了後、英語表記のデジタルアンケートに回答する。
- ・アンケート結果は、本事業の効果検証の指標とする。

レース実況の多言語化

①音声

- ・戦略委員から、日本語のレース実況・解説とは全く別に、多言語(英語)による実況・解説の実施について要望はあったが、レース配信に支障のないレベルの実況・解説者をブックングできなかったこととコスト面から、本事業では、1名の翻訳者が日本語のレース実況・解説を英語に翻訳する形で生配信する。

②字幕

- ・生配信の多言語化については、音声のみでよいのではないかという戦略委員の意見を受けて、字幕については、大会終了後レースのハイライト映像に入れることとする。英語、中国語の二言語で実施する。

③視聴環境整備

- ・現地観戦者が自身のスマートフォンやタブレット端末で支障なく、レース配信を視聴できるよう、事務局で一定数のポケットWi-Fiを準備する。

サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアーの実施

①日程・行程案

- ・ツアー中、サイクリングの実施回数を増やした方がよいという戦略委員の意見を受けて、期間中4回実施とする。
- ・観光については、参加者が望まないのではないかと戦略委員の意見を受けて実施しないものとする。

②英語デジタルアンケート

- ・参加者は終了後、英語表記のデジタルアンケートに回答する。
- ・アンケート結果は、本事業の効果検証の指標とする。

③情報発信

- ・サイクリングモニターツアーに15名目安に参加いただき、ツール・ド・九州や九州のサイクリング環境について、SNSやYouTubeでの情報発信していただく。

ヘリコプターから楽しむツール・ド・九州

※事務局の受入方策案として、熊本阿蘇ステージにおいて条件付き実施を提案していたが、安全面への配慮とコスト面から本事業では実施しないものとする。

2.戦略会議の開催 10/2 第三回戦略会議

2.意見交換 - 観戦モニター・サイクリングモニターツアーについて

ニック・サーズ 氏 一般の方向けにシャトルバスも運行されている、混合しないように対応してほしい。

事務局 福岡ステージの観戦モニター企画には、TKUヒューマン・山邊が乗車して、誤りのないよう対応する。

蓋奇雨 氏 サイクルカーゴに荷物とサイクルバッグはすべて乗るのか。カーゴに乗らない場合、博多駅で預かるなども検討してほしい。また、ホテルや旅館、部屋の中への持ち込みは可能か。基本は断っているが、中国では部屋にサイクルバッグを持ち込みたいという人もいる。

事務局 サイクルカーゴに乗せられる荷物の分量は西鉄に確認している。

ニック・サーズ 氏
山田大五朗 氏 ハードケースのバッグはサイズが大きい。ご自身の荷物のスーツケースとハードケースを持ってくる参加者がいることを想定して、サイクルカーゴ内に乗りきらないことを想定して動いた方がよい。

大川内洋介 氏 福岡県でサポートしたい、今後、輪行支援事業を拡げていきたいと考えている。

蓋奇雨 氏 自転車のサポートはどうなっているか。

事務局 ポンプのみ想定、スペアタイヤはご自身で準備。サイクルカーゴに積んでいる備品は使える。

2.意見交換 - 多言語化対応について

ニック・サーズ 氏 英語実況(副音声)を視聴したい方にどうやって伝えるか？日本語リアルタイム配信内で伝えるなどできないか。

2.意見交換 - 観戦モニター企画アンケートについて

各委員からの
意見

- ・観戦だけではなく、自身もサイクリングを楽しみたいかどうか聞いたがよい。
- ・有料で観戦モニターツアーに参加するならいくらなら出すか。
- ・なぜ、ツール・ド・九州を観戦にきたのか、応援するチームがあるからか。
今後に繋げるために理由を知りたい。
- ・英語実況に関する感想について質問を入れたほうがよい。
- ・英語実況の情報が十分だったか質問を入れたほうがよい。
- ・アーカイブを視聴したいと思うか質問を入れたほうがよい。

2.戦略会議の開催 効果検証のためのKPIと具体的手法設定

3回の戦略会議を経て、本事業の検証に係るプランと効果検証のためのKPI
また手法については下記通り設定する。

定量評価

- ①訪日外国人旅行者にとって、ツール・ド・九州が主目的のひとつとなるよう、国内外の外国人を対象にした大会の観戦企画やサイクリングモニターツアーに80名目安に参加いただきアンケートを実施し、満足度70%以上を目標とする。
- ②大会の観戦企画やモニターツアー参加者に、自身のSNSなどで情報発信を促し、ツール・ド・九州および九州のサイクリング環境の認知度向上に繋げる。欧米やアジア圏など5か国以上の参加者の情報発信で、のべ30万回以上のリーチ獲得を目標とする。
- ③大分、熊本阿蘇、福岡の各ステージのレースを英語実況で生配信を行う。終了後、観戦企画やサイクリングモニターツアー参加者にアンケートを実施し、満足度70%以上を目標とする。

定性評価

- ①九州において、サイクリングのゴールデンルートのひとつである大分、阿蘇コースのサイクリングを含むモニターツアーを実施。サイクリングにおける九州のポテンシャルについてアンケートをもって測る。
- ②九州においてサイクリング旅行する場合、宿泊は日本式の旅館を利用するケースが多くなることが想定される。外国人サイクリストにとって、旅館での寝食の満足度についてモニターツアーを実施し、アンケートを通して検証する。
- ③九州においてサイクリング旅行する場合、レンタサイクルを利用するケースが多くなることが想定される。外国人サイクリストにとって、満足度の高いギアを九州で提供できるのかモニターツアーを実施、アンケートを通して検証する。
- ④九州には1台しかないサイクルバス「サイクルカーゴ」を使用してモニターツアーを実施。サイクルカーゴが呼び水になり、外国人サイクリストの増加に繋がるかアンケートの結果をもって検証する。

3. 受入方策の実施

3.受入方策の実施（I）大会車列等からの観戦 – 大分ステージ

【実施日時】10/12(土) 9:30-12:00

【実施ステージ】大分ステージ スタート～フィニッシュエリア近く

【参加者】立命館アジア太平洋大学 学生1名、随員職員1名

【実施内容】レース本番の競技自転車列の中を走行する大会車列座席に乗車し、選手と同じ目線とスピード感で、レースの迫力を間近で体感する。

大分ステージ 参加者アンケート回答

- 今回2台のゲストカーに同乗してレースを観戦したが、選手や大会運営に支障をきたさないことを第一に考えると、規模の拡大は厳しいと考える。サイクルロードレースの盛んな欧州の富裕層を第一ターゲットとして、少人数・高付加価値・高額なツアーとして展開するのがよいのではないか。
- 車中は、実際の選手をリアルに観られることは貴重な体験となるが、選手を追い越すときを除けば、選手を間近に見ることはできない。仕方がないこととは承知しつつも、物足りなさを感じざるを得ない。一方で、やまなみハイウェイに広がる景色は見ごたえがあり、沿道で応援する方の様子は微笑ましい。
- ゲストカーは、上り坂ではペースダウン、下り坂ではペースアップと選手のスピードに合わせて走行していく。下り坂でのスピードはかなりの速さになるが、経験豊かなドライバーのメリハリのある運転も楽しみのひとつ。
- ゲストカーは、選手と同じ風を感じ一層の臨場感を感じてもらうために、オープンカーにしてもよいのではないか。
- レース全体の様子は、YouTube配信で確認できたが、車内にモニターを設置するなど工夫があつてよい。
- 車中ドライバーは質問に丁寧に答えていただいた。実際にツアー造成する場合、ドライバーには解説者としての役割も求められる。サイクルロードレース自体の解説に加えて、沿道の風景などについても案内できるとよい。
- 実際のツアーでは、可能であれば先回りし、レース終盤の周回コースやゴール時の様子、疾走する選手の迫力ある姿は、ゴール地点で見せたい。その際には、特別席を設けるなど、配慮が必要。

3.受入方策の実施（Ⅰ）大会車列等からの観戦 – 大分ステージ

- スタート前の高付加価値化のポイントとして、次の点が考えられる。
 - ・チームピットでの選手との交流、選手の使用する機材の解説など。
 - ・スタート時のセレモニーへの参加。
 - ・スタートの様子を間近で観戦。
- ゴール後の高付加価値化のポイントとして、次の点が考えられる。
 - ・ゴール後の選手との交流、ファン交流イベントの開催。
 - ・表彰式への参加。
- レースを見ること、人々の熱気を感じることに、総じて素晴らしい経験だったが、レース中、沿道で観戦する場所が少なすぎると感じた。

《車中からの様子》



3.受入方策の実施（I）大会車列等からの観戦 – 熊本阿蘇ステージ

【実施日時】10/13(日) 9:00-11:30

【実施ステージ】熊本阿蘇ステージ スタート～フィニッシュ

【参加者】戦略委員 ニック・サズ 氏、蓋奇雨 氏

【実施内容】レース本番の競技自転車列の中を走行する大会車列座席に乗車し、選手と同じ目線とスピード感で、レースの迫力を間近で体感する。

熊本阿蘇ステージ 参加者アンケート回答

- 全く見えなかった。前の車のバンパーが見えるぐらい、それ以上はない。自転車が見えないと乗る意味がない。写真も撮れなかった。
- すごく期待したが、選手の様子が見えない。選手が準備するところやスタート前の様子を見ることができたのは良かったが、レース途中の状況は全く分からなかった。この仕様でスポンサーメリットやツアー商品として販売してはならない。

※福岡ステージ 実施なし

【実施日時】10/14(月・祝) 13:30-17:00

【実施ステージ】福岡ステージ スタート～フィニッシュ

【参加者】九州在住アメリカ人2名

【実施内容】レース本番の競技自転車列の中を走行する大会車列座席に乗車し、選手と同じ目線とスピード感で、レースの迫力を間近で体感する。

10/14(月・祝)予定していた福岡ステージの車列からの観戦については、大会主催者と安全面について協議した結果、中止と判断。

3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 大分ステージ

【実施日時】10/12(土) 10:30-14:30頃

【実施場所】日田市役所フィニッシュエリア

【実施内容】キッチンカーエリアで使用できるミールクーポン3,000円分を提供、
飲食を楽しみながら レースを観戦。終了後、アンケート実施。
後日、SNSのアカウントを持つ方は、自身のSNS等で情報発信。

【参加モニター】51名（APU学生36名、サイクリングモニターツアー参加者15名）

《APU学生属性》

（性別）男性：11名、女性：25名

（国籍）ミャンマー：7名、ベトナム：6名、インドネシア：6名、バングラデシュ：5名、
タイ：2名、イタリア：1名、中国：1名、ネパール1名、シエラレオネ：1名、ケニア：1名
ルワンダ：1名、カンボジア：1名、マレーシア：1名、ラトビア：1名、インド：1名

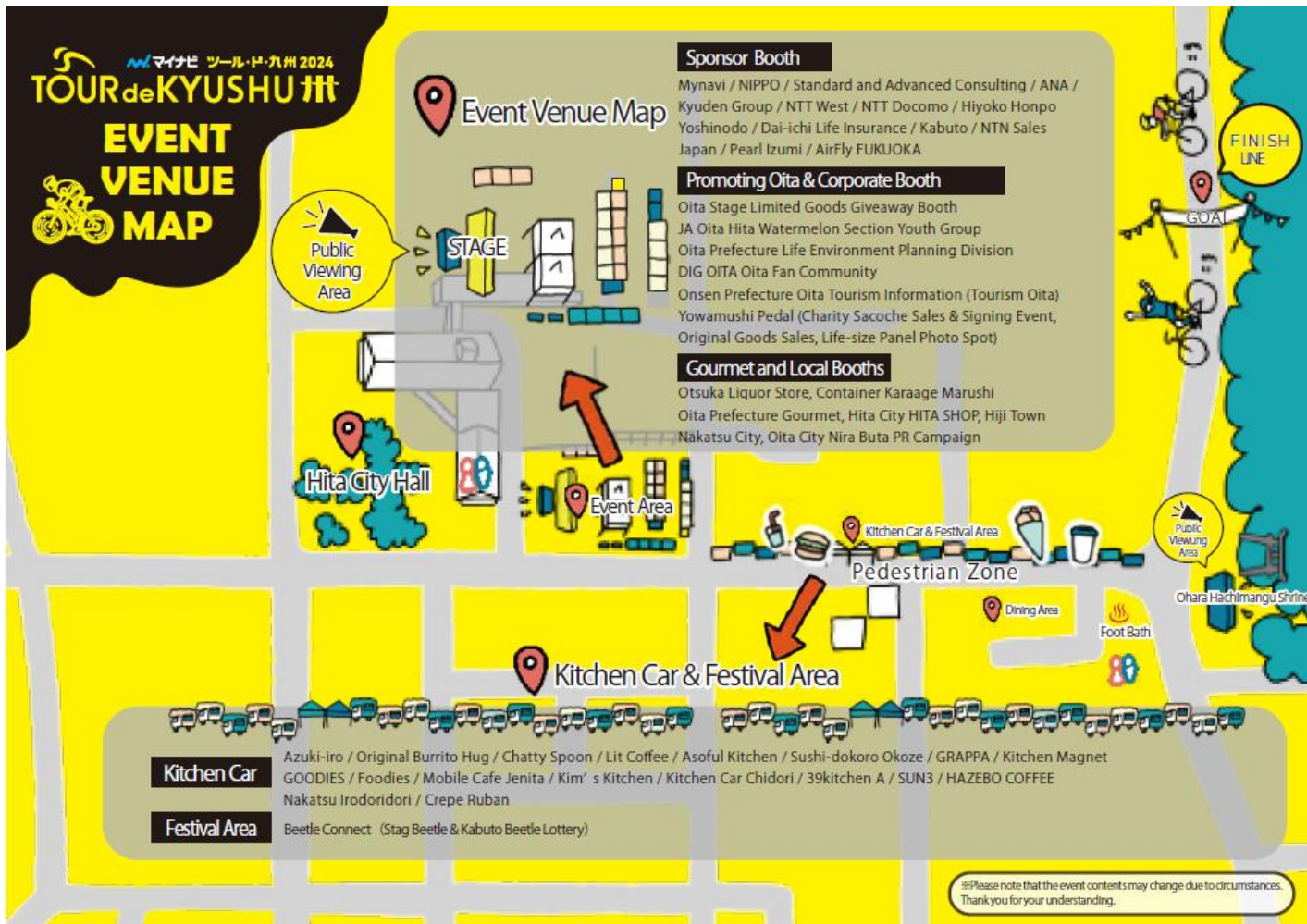
08:15	別府駅西口1番バスのりば 集合
08:50	APU キャンパス内噴水前 集合
09:00~10:05	スタート前の賑わい、スタートセレモニー（APU 吹奏楽部、チアダンス部参加）観戦
10:10	バス集合（バスの駐車位置は当日ご案内します。） 交通規制解除後、日田市へ移動（約1時間）
11:30頃	日田市陸上競技場 着
	日田市役所前フィニッシュエリアで各自観戦 当日ミールクーポン（食事券）を提供します。食事やイベントをお楽しみください。
14:20	日田市陸上競技場 集合
14:30	バス 出発
15:30	APU 着
16:00	別府駅 着

- ① 主催からのロードレースに対するアンケートに回答すること
- ② 当日の様子を下記のハッシュタグ（#）をつけてインスタに投稿すること
#tourdekyushu
#UCI
#tourdekyushufun

3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 大分ステージ

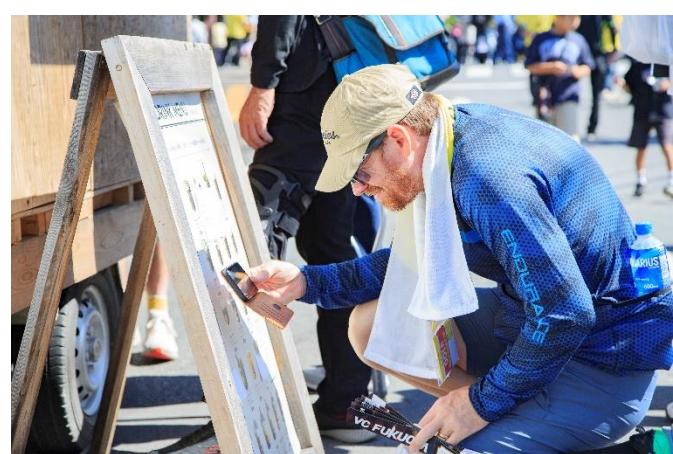
《観戦マップ》

日田市役所周辺観戦マップ英語版を作成して配布



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 - 大分ステージ

《観戦の様子》



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 - 大分ステージ



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 熊本阿蘇ステージ

【実施日時】10/13(日) 10:30-14:00頃

【実施場所】南阿蘇村役場フィニッシュエリア

【実施内容】キッチンカーエリアで使用できるミールクーポン3,000円分を提供、
飲食を楽しみながら レースを観戦。終了後、アンケート実施。
後日、SNSのアカウントを持つ方は、自身のSNS等で情報発信。

【参加モニター】25名(一般募集者10名、サイクリングモニターツアー参加者15名)

《一般募集属性》

(性別)男性:5名、女性:5名

(国籍)インドネシア3名、ウズベキスタン2名、ベトナム2名、アメリカ2名、
イラン1名、ナイジェリア1名、

【開催日時】 2024年10月13日(日) 8:00~16:30 予定

【行程】
・08:20 桜町バスターミナル集合 ※貸切バスホーム
・10:30 南阿蘇村役場到着
・10:30~14:00 フィニッシュエリアにて自由観戦
・14:15 南阿蘇村役場出発
・16:30 桜町バスターミナル到着、解散

【参加費】 無料

【募集人員】 25名(応募申込み順)

【参加要件】
・観戦後、デジタルアンケート回答(英語表記)
・ご自身のSNSやWebサイトで、観戦について情報発信いただける方
・外国籍または日本在住の外国人

【備考】
会場内で使用できるミールクーポン進呈いたします。
※本ツアーはモニターツアーです。申込条件を必ずご確認の上、お申込み下さい。
※最小催行人員:2名 バス会社:九州産交バス同等
※添乗員同行(英語対応)

3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 熊本阿蘇ステージ

《観戦の様子》



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 福岡ステージ

【実施日時】10/14(月・祝) 11:00-19:00頃

【実施場所】岡垣町観戦エリア・宗像大社フィニッシュエリア

【実施内容】岡垣町観戦エリアで使用できるミールクーポン5,000円分を提供、
飲食を楽しみながら レースを観戦。終了後、アンケート実施。
後日、SNSのアカウントを持つ方は、自身のSNS等で情報発信。

【参加モニター】36名

(性別)男性:24名、女性:12名

(国籍)アメリカ:10名、オーストラリア:6名、カナダ:4名、ドイツ:3名、インド:2名、
台湾:2名、シンガポール:2名、イギリス:1名、インドネシア:1名、韓国:1名
シリア:1名、ブラジル:1名、日本:2名(※付き添い)

行程:

11:50 海老津駅 出発

12:10 芹田交差点(シャトルバス発着所)到着

★各自観戦！ ★ミールクーポンで食事をお楽しみください！

14:45 芹田交差点(シャトルバス発着所)出発

*交通規制のため、時間厳守でご集合ください！

15:45 宗像大社周辺 到着

★各自観戦！

18:45 宗像大社周辺 出発

19:15 東郷駅 到着

【重要事項】

・ツール・ド・九州の様子を必ず SNS へ投稿お願いします。

・ツアー終了後、デジタルアンケートにご回答をお願いします。QRコードが付いた案内用紙をお渡ししますので、速やかにご回答ください。

・その他追加案内は当日資料をお渡しします。

◆YouTube でも「ツール・ド・九州 2024」を楽しもう！

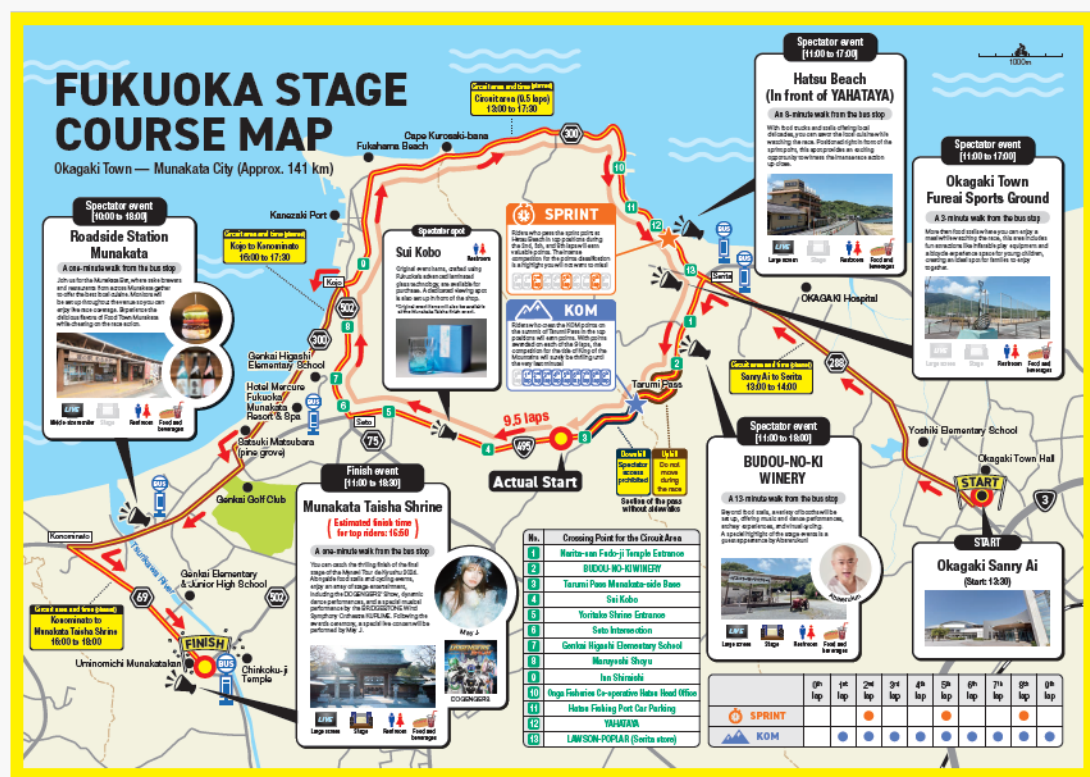


← QRコードより読み取りをお願いします。

3.受入方策の実施 (II) フィニッシュエリアでの観戦 - 福岡ステージ

【観戦マップ】

福岡ステージのコース図やチーム情報を記載した観戦マップを作成して配布



TOUR de KYUSHU 2024 Executive Committee
General Incorporated Association (TOUR de KYUSHU)

10.14 MON
STAGE 3 FUKUOKA

START
Okagaki Sanry Ai

FINISH
Munakata Taisha Shrine

Feel the heat from racing, experience the beauty of Kyushu on the global stage.

TEAM

ASTANA QAZA (QAZ) TEAM (AST) (KAZ) WorldTeam	SHIMANO RACING (SHN) (KAZ) Continental Team
EF EDUCATION - EASYPYST (EFC) (KAZ) WorldTeam	SPRALER & OITA RACING TEAM (SPR) (KAZ) Continental Team
CORDATEC VINI RAINVINI (COR) (KAZ) ProTeam	TEAM BROOKSTONE CYCLING (BOT) (KAZ) Continental Team
TOULLENBERGIES (TEB) (KAZ) ProTeam	TEAM FELT FELBERMAYER (FSM) (AUT) Continental Team
ASIAN RACING TEAM (ARS) (KAZ) Continental Team	TERERIGAMU CYCLING TEAM (TSG) (KAZ) Continental Team
JUL TEAM UKYO (JUL) (KAZ) Continental Team	UTSUNOMIYA BLITZEN (BLZ) (KAZ) Continental Team
KINLAN RACING TEAM (KIN) (KAZ) Continental Team	VC FUKUOKA (VFC) (KAZ) Continental Team
MATRE POWERTEAM (MTR) (KAZ) Continental Team	VICTORIE HIROSHIMA (VHC) (KAZ) Continental Team
ROLAMI INSURANCE (ROI) (KAZ) Continental Team	VICTORIA SPORTS PRO CYCLING (VSP) (KAZ) Continental Team

LEADER'S JERSEY

Individual General Classification - Overall Time Award

Point Award

King of Mountain Award

Young Rider Award

PARKING / SHUTTLE BUS INFORMATION MAP

Munakata City Hall (Free parking 500 cars)

BOAT RACE Ashiya (Free parking 1,300 cars)

Munakata Sewage Treatment Plant Ground (Free parking 250 cars)

Serita Intersection Shuttle Bus Stop

SHUTTLE BUS INFORMATION

Munakata City (Operating around 10:00 to 16:00)

Okagaki Town (Operating around 10:00 to 18:30)

Ultimate spectator plan

① 14:45 ② 15:00 ③ 15:15 ④ 15:30

3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 福岡ステージ

《観戦の様子》



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 福岡ステージ

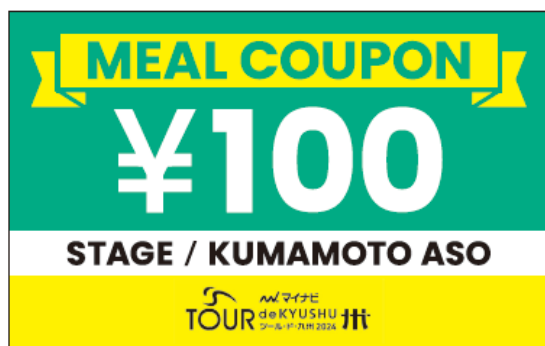


3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – サイン関係

《観戦モニター ゲストパス》



《観戦モニター提供 ミールクーポン》



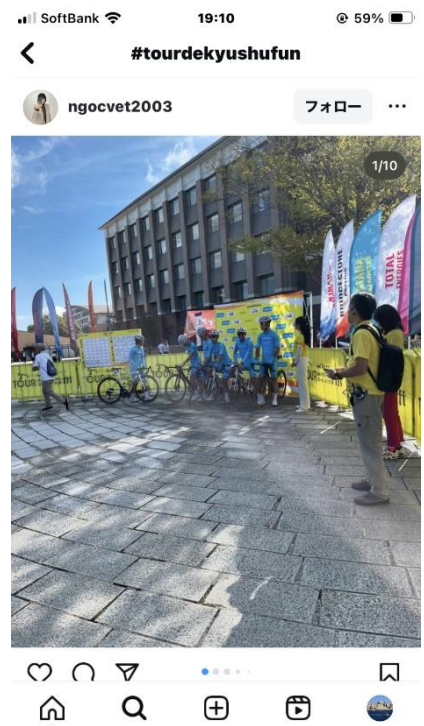
3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 注意事項

《運営上の留意点》

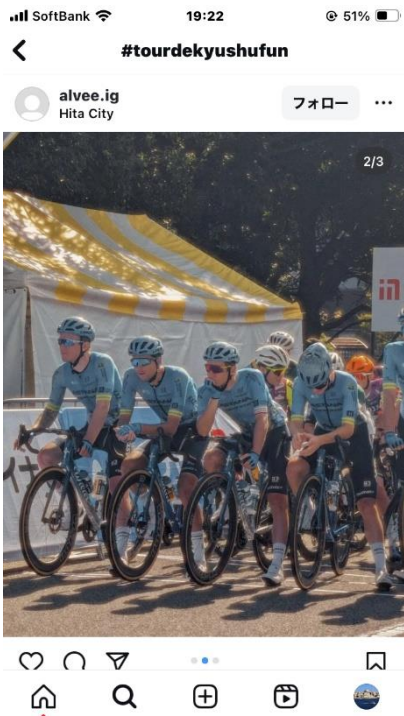
- 観戦モニター移動バスには、英語通訳のガイドが帯同いたします。
- すべてのステージの観戦エリアに、事務局(TKUヒューマンスタッフ)が立会い、ミールクーポンの配布、レース動画視聴のサポートをいたします。
- レース動画視聴のため、ポケットWi-Fi10機を準備いたします。
※今回参加いただくモニターは日本在住の外国人のため、ご自身のスマートフォンの回線で視聴いただけますが、データ通信量の制限など、視聴環境が厳しいモニターの方にご使用いただきます。
- ミールクーポンについては、大分・熊本阿蘇ステージは100円・500円の2種、福岡ステージは500円の1種、いずれもお釣りは出ません。
- アルコール販売については、福岡ステージはフリードリンクスポットで提供、観戦モニターにも飲み放題パスを進呈いたします。大分ステージは、一部キッチンカーにて販売、熊本阿蘇ステージは販売不可となっています。
- すべてのステージの観戦エリアに、記録用のスチールカメラマンを配備いたします。
- 観戦モニターにはアンケートに回答いただき、後日SNS等で情報発信いただきます。
- 観戦モニター全員に、ノベルティ(記念タオル)を進呈いたします。

3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信

《モニター参加者は、自身のSNS(非公開もあり)などで情報発信》



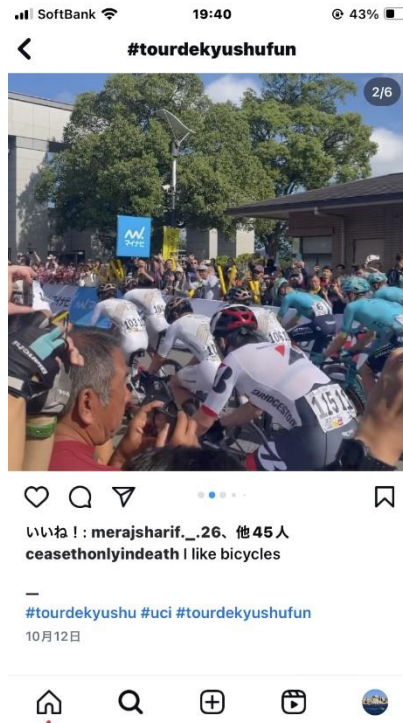
3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信



3.受入方策の実施（Ⅱ）フィニッシュエリアでの観戦 – 情報発信



3.受入方策の実施（Ⅲ）レース実況の多言語化

【実施日時】10/12(土) -10/14(月・祝)

【実施場所】TKU社内 副音声特設ブース

【実施内容】①大分、熊本阿蘇、福岡各ステージのレースを英語副音声でリアルタイム配信。マイナビ ツール・ド・九州公式YouTubeチャンネルにて、公開配信。
②大会前に英語字幕テロップ入り動画を、大会後に大分、レースハイライトを英語・中国語字幕テロップ入りでアーカイブ配信。

①英語副音声リアルタイム配信

【日本語リアルタイム配信】

(飯島誠 氏)



(アリー 氏)



【英語副音声リアルタイム配信】

(砥川都萌香 氏)



英会話トレーナーとして、地元ラジオ出演きっかけでバイリンガルMCとしての活動を始め、国際的なスポーツイベントやレセプション、シンポジウムなどで活動。飯島氏・アリー氏の実況解説をリアルタイムで英語翻訳し配信する。

マイナビ ツール・ド・九州公式YouTubeチャンネル内に英語副音声チャンネルを公開設定



3.受入方策の実施（Ⅲ）レース実況の多言語化

②字幕テロップ入り動画配信

《大会前、英語字幕入りのみどころ動画配信》

配信URL:https://www.youtube.com/watch?v=Vr_eudrMl4c&t=508s



《大会後、英語・中国語字幕入りのレースハイライト動画配信》

配信URL:<https://www.youtube.com/watch?v=wBYcmeo7wWw>



3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

モニター観戦後、参加者に英語表記によるアンケートを実施。



Thank you for joining the monitor tour today. We would like to ask to answer this questionnaire.

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

* 必須の質問です

メールアドレス *

メールアドレス

1. Gender *

- male
- Female
- other

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

2.Age *

- under 10s
- 10s
- 20s
- 30s
- 40s
- 50s
- 60s
- over70s

3.Nationality *

回答を入力

4.Where are you currently living? (If you are living in japan,please specify the name of the prefecture.) *

回答を入力

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

5. Have you ever watched a bicycle race before ?

- 1st time
- 2st time
- 3st time
- more than

6. Have you heard of the Tour de Kyusyu.

- Yes
- No

7. For those who answered "Yes" in question No.6, how did you find out about it?
(Please select all that apply)

- TV
- Interenet
- X
- Instagram
- YouTube

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

8.How satisfied were you with watching the Tour de Kyusyu 2024?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Dissatisfied
- very Dissatisfied

9.How satisfied were you with the food area?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Dissatisfied
- very Dissatisfied

10. Would you like to experience cycling for yourself after watching the Tour de Kyushu 2024?

- Yes
- No

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

11. Would you recommend watching the Tour de Kyusyu to your friends?

- Yes
- No

12. What do you think are the pros and cons of the viewing environment?

回答を入力

13. How satisfied were you with the real-time English commentary broadcast?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Dissatisfied
- very Dissatisfied
- その他: _____

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

14. Was the information provided in the English commentary sufficient?

- Sufficient
- Somewhat sufficient
- Lacking
- その他: _____

15. Would you like to watch the race archives?

- Definitely want to watch
- Want to watch
- Do not want to watch
- その他: _____

16. This time the viewing tour was free. If it were a paid tour, how much would you be willing to pay?

- 0yen
- 500yen
- 1,000yen
- 2,000yen
- 3,000yen or more

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

17.If you have any other comment or opinions about Tour de Kyushu, please describe in below form.

回答を入力

Thank you very much your corporation in the questionnaire.

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Does this form look suspicious? [レポート](#)

Google フォーム

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ） 参加者アンケート

観戦モニター企画に参加いただいた82名(サイクリングモニターツアー参加者除く)のうち、64名から有効回答を得られた。

1. 性別

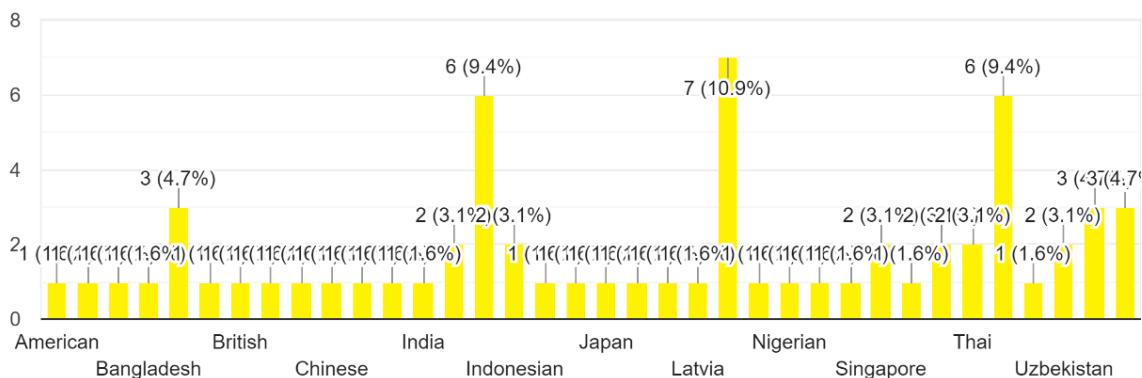
【回答】男性:53.1%、女性:46.9%

2. 年代

【回答】19歳以下:4.7%、20代:60.9%、30代:15.6%、40代以上:8.8%

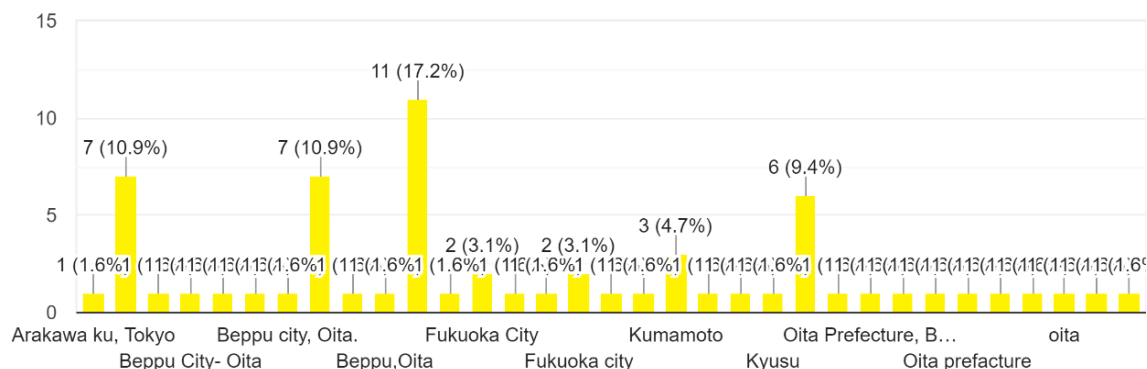
3. 国籍

【回答】アメリカ:8名、インドネシア:8名、ミャンマー:7名、ベトナム:6名
 バングラデシュ:5名、インド:3名 他



4. 居住地

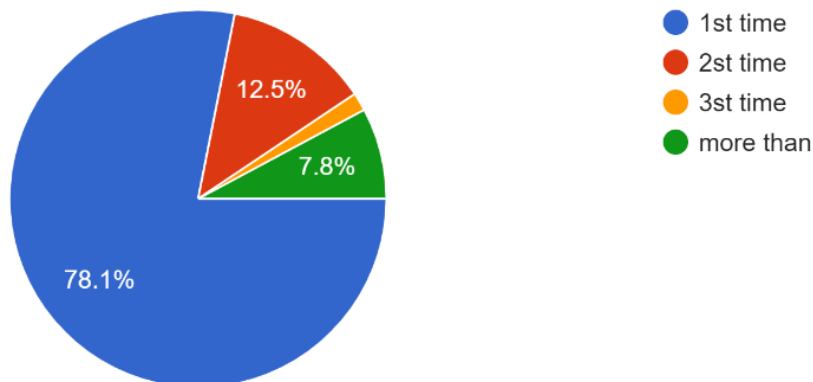
【回答】九州(大分、福岡、熊本、鹿児島):62名、東京:2名



3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ） 参加者アンケート

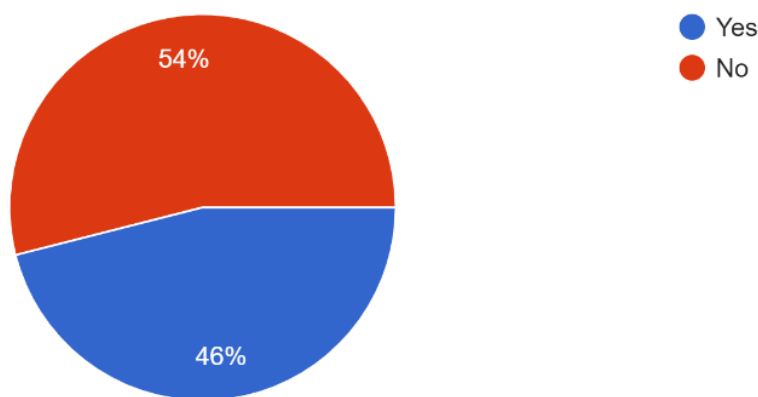
5. サイクルイベントを観戦したことがありますか

【回答】初めて:78.1%、2回目:12.5%、3回以上:9.4%



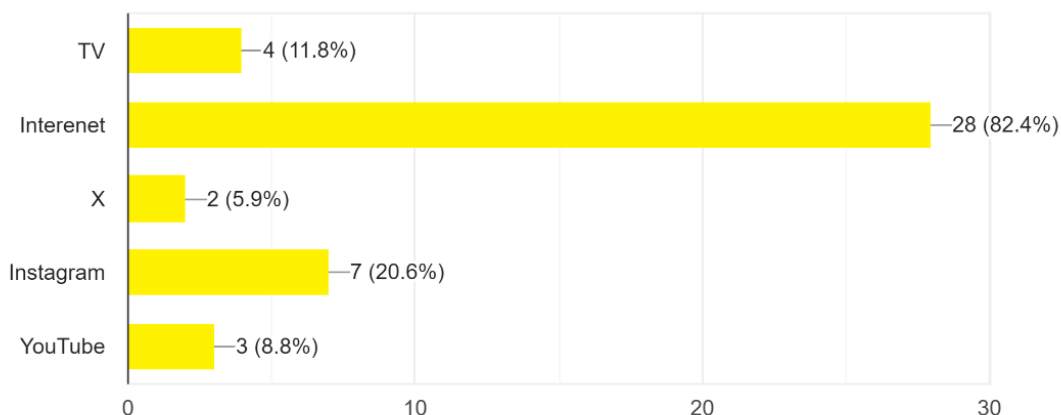
6. ツール・ド・九州のことを知っていましたか

【回答】はい:46%、いいえ:54%



7. 6で「はい」と答えた方は、大会を何で知りましたか

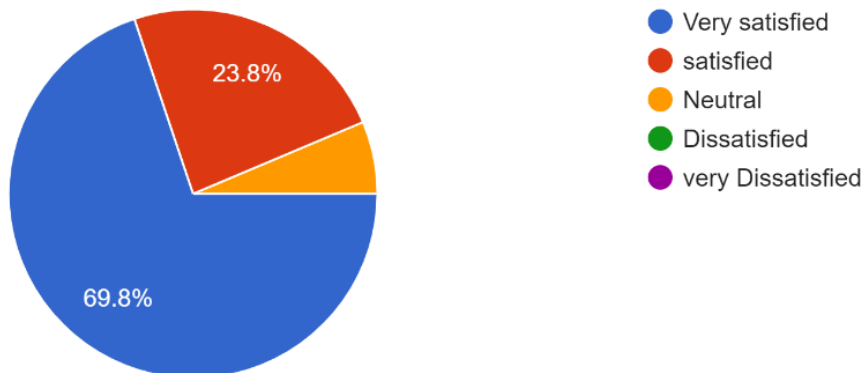
【回答】インターネット:63.6%、Instagram:15.9%、TV:11.8%



3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

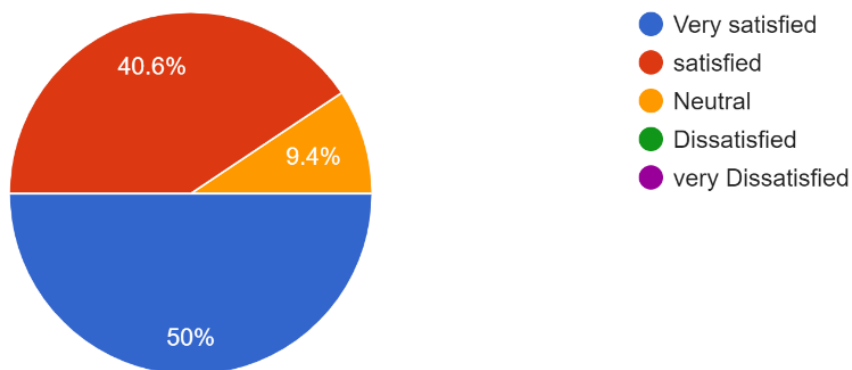
8. ツール・ド・九州を観戦した満足度はいかがですか

【回答】とても満足:69.8%、満足:23.8%。普通:7.4%



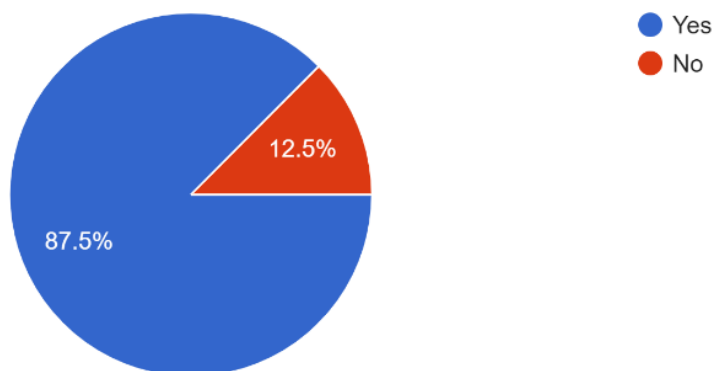
9. フードエリアの満足度はいかがですか

【回答】とても満足:50%、満足:40.6%。普通:9.4%



10. ツール・ド・九州を観戦して、自身もサイクリングを楽しみたいと思いましたが

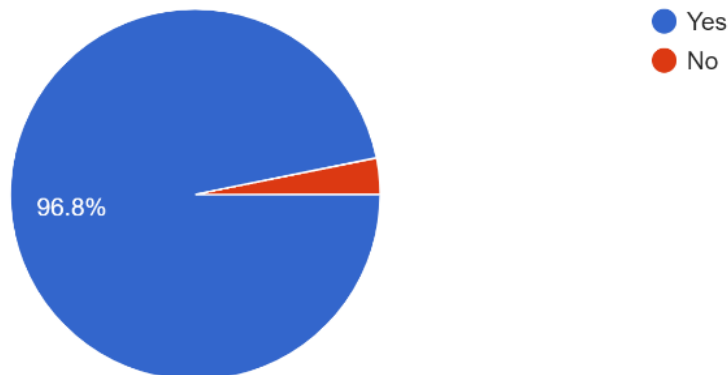
【回答】はい:87.5%、いいえ:12.5%



3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

11. ツール・ド・九州を知人に勧めたいと思いますか

【回答】はい:96.8%、いいえ:3.2%



12. 観戦環境で良かったこと、良くなかったことを教えてください(自由記述)

●とても良く興奮した。
●良い点は屋台が多いこと、悪い点は暑すぎること。
●天気はとても暑かったけど、食べ物の屋台は良かった。人はたくさんいたが、それほど混雑もしておらず良かった。(大分ステージモニター)
●暑すぎた、もっと座る場所を設けるべき。
●非常に良く組織的に運営されていたと思うが、唯一の欠点は宣伝が不足している。
●イベントはとても素晴らしく、運営側も参加者とボランティアを気にかけていた。
●コミュニティと余暇の感覚をもたらしてくれた。(大分ステージモニター)
●とても暑くて、避難する場所が欲しかった。
●DJがちょっとうるさかった。
●立って観戦するには暑すぎることを除けばすべてが完璧だった。休憩できる小屋やブースがあればとてもよい。(大分ステージモニター)
●参加者にとっては天候が厳しすぎる。
●とても美しい場所だった。
●長所は、観戦環境が広く、自然豊かなエリアのため、スタッフ、ショップ、選手と交流しやすい。短所はとても暑いこと。(大分ステージモニター)
●良い点は、広々とした場所、座席の配置も素敵。悪い点は、日陰が少なく、飲み物の選択肢は豊富だが、ミネラルウォーターの販売がない。

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

●暑すぎたのでテントが欲しかった。
●雨や暑さから守られないので、観戦体験は快適とは言えない。しかし、楽しかったし、安全面が本当に良かった。
●日陰と座る場所が必要。
●複数の会場で観戦できるのは素晴らしい。ステージがよく見えなかった。 (福岡ステージモニター)
●観戦環境はすべて良く快適だったが、とても暑かったので日陰がもっとあれば良かった。
●特別な写真撮影スポットが必要。(福岡ステージモニター)
●とても晴れていて暑かった、それ以外はOK。
●何も言うことはない、すべてが完璧。食べ物も楽しめたし、レースを観ていてとても楽しかった。 (熊本阿蘇ステージモニター)
●良い点は、九州の様々な地域や県から来た地元の日本人と一緒にサイクリングショーを楽しむこと。悪い点は、ライブストリーミング用の大きなスクリーンが1つしか設置されていないため、全員がライブを視聴するのがそれほど便利でなかったこと。(福岡ステージモニター)
●良い点は、とても活気があり、レースに参加している選手たちが私たちと交流してくれた。レースは観ていてワクワクしたし、遠くからでもレースの進行状況が分かるテレビ画面があって良かった。悪かった点は、選手たちと一緒に写真を撮ることができればよかった。(福岡ステージモニター)
●ツアーに参加するのは良いことだが、日本語が分からないため、周りで何が起きているのか理解するのが難しかった。(福岡ステージとみられるモニター)
●非常に興味深いイベントだった。組織的でタイムリーなプログラム構成、ユニークな海外からの訪問者と選手、風船など無料の小道具と応援アイテム、黄色のテーマと音楽は本当によくできていた。(福岡ステージモニター)
●短所は、イベントの座席スペースが限られていたこと、レースのスタートとフィニッシュしか観ることができず、あまりスリリングでなかったこと、留学生には、イベントに貢献する機会をもっと与えるべきだったと思う。(大分ステージモニター)
●良い点は、装飾・旗・出店などで会場がいっぱいで、イベントを楽しむこと。ライブスクリーンとDJが素晴らしかった、ステージ上で踊る人も見かけた。悪い点は、座席とゴミ箱が足りないこと。自転車レースを観にくる外国人のことを考えると、トイレ標識など英語情報が不足している。案内標識がなかったので、ライブショーを観ることができる場所が分からず、歩きまわったのは厳しかった。(福岡ステージモニター)

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

●楽しかったが、日差しを遮るスペースがなかった。
●日よけが不十分で、座る場所がない。
●欠点はなく、すべてがよく整理されていた。
●欠点は、太陽が肌を焼くほど暑く、周りに日陰がなかった。
●フードエリアの紹介が分かりにくかった。（福岡ステージモニター）
●食べ物屋がたくさんあり良かった。（熊本阿蘇ステージモニター）
●海の眺めが素晴らしい。
●観戦場所は素晴らしかったが、日本語が分からないのは厳しかった。
●長所はすばらしい景観、自然、静かな環境。短所なし。
●（福岡ステージは）ミールクーポンは最初のエリアのみ有効だったが、滞在時間は2番目のエリア（宗像）より短かった。食べ物と飲み物を手に入れるのにととても急ぎ、飲食、レースを楽しむ時間があまりなかった。クーポンを両方のエリアで有効にするか、少なくとも2番目のエリアで飲み物だけでも有効にすると良かった。
●スタンドがないとライダーが見えにくい。（大分ステージモニター）
●良い点は、自転車レースを観ながら食べ物や飲み物を味わうのはとても楽しい経験だった。悪い点は、食べ物エリアを含め、ほとんどの時間立っていなければならなかった。座る場所がもっとあればよかった。
●短所は、観覧エリアの座席数が足りなかった。また、レーサーを他の人の後ろではなくよりよく観るために、少し高い観覧エリアがあればよかったと思った。長所は、様々な食べ物の屋台があり、雰囲気は活気があった。
●座席エリア、トイレ、道順など英語での情報が不十分。（福岡ステージモニター）
●ぶどうの樹の食事エリアは、斜面に位置しており立地は良かった。素晴らしい景色を眺めることができた。
●良い点は、観客は礼儀正しく、押し合いもなく、他人のスペースを尊重して観戦していた。悪い点は、ゴールラインの近くにビジョンがあれば良かった。利用できる1つのスクリーンを全員で観ることはできなかった。
●観覧エリアは素晴らしかったが、少し離れていて移動が分かりにくかった。各観覧ポイントの方向と距離を示す標識があると便利。ゴールラインの眺めは 素晴らしく、興奮した。

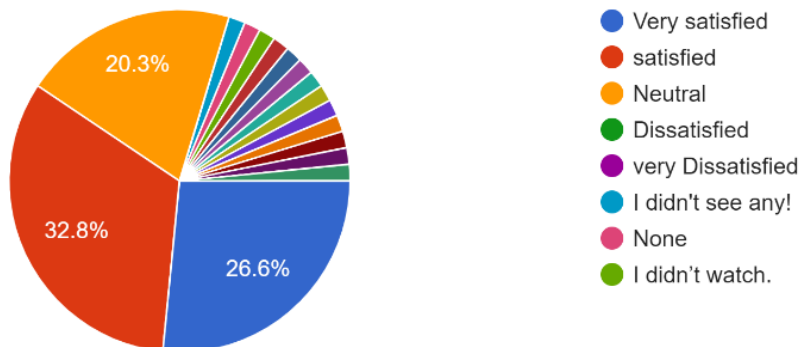
3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

- すべてが素晴らしかった。多くの訪問者にとって唯一の問題は、「公式」の道路横断スポットが明確に示されていないこと。ヨーロッパのロードサイクリングでは、安全であればいつでもどこでも横断できるのが文化の一部。日本ではそうではないが、それが明確にされていないことが問題。良い点は、飲み物が簡単に手に入ること、食べ物がフェスティバル価格なので少し高かったが、許容範囲であること。トイレは衛生的で良かった、観覧エリアもよかった。全体的に素晴らしい。もう一度行きたいし、サイクリングファンでない人にも勧めたい。（福岡ステージモニター）
- とても興奮した。
- ビジョンはレースを観るのに役立ったが、波津海岸のビジョンはフードエリアからは見えなかったもので、ビジョンやコースが見えないエリアで食事してからレースを観戦しなければならなかった。
- 各エリアでどのような食べ物を食べられるか分からなかったが、観覧エリアからレースはよく見えた。
- レースを観戦するのに良い観覧エリアが複数あった。飲食物の選択肢が多く素晴らしかった。日陰や屋根のあるエリアをもう少し欲しかった。
- サイクリストたちが群れをなして非常に速く通り過ぎていくので、生で見ても興奮は感じられなかった。（熊本ステージモニター）
- 会場までのバス移動中に、コースの説明があったら良かった。英語の地図は提供されたが、何度も周回することや山岳賞にポイントが与えられることなど最初は明確でなかった。また、(岡垣町は)売店エリアは3つあったが、実際に訪れる時間は1か所だけだった。どこで何を観られるのか、もっと説明があった方がよかった。ワイナリーには食事の選択肢が最も多そうだったのでそこに行ったが、レースをライブで観戦するという点では最も面白くないポイントだったのではないか。宗像大社の大型スクリーンでレースを観戦する時間を過ごしていた方が、食べ物の選択肢や他の屋台も充実していてもっと楽しかったと思う。ビーチエリアで参加した人の中には、スプリントポイントで充実した観戦体験をしたという人もいたと聞いている。

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

13. 英語実況のリアルタイム配信はいかがでしたか

【回答】とても満足:26.6%、満足:32.8%、普通:20.3%、見なかった:17.2%



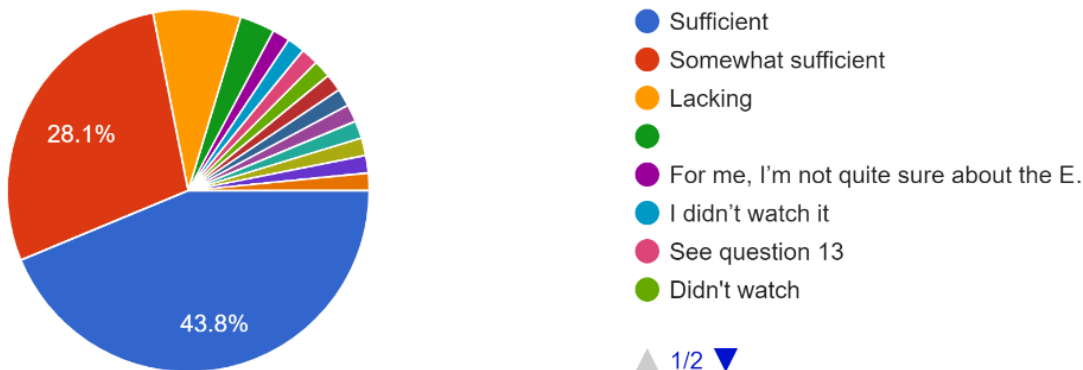
(その他意見)

●英語翻訳は良い仕事をしたが、直接翻訳しようとしていて、内容のニュアンスを本当に理解していなかったことは明らか。数時間にわたって実況するには、レースで何が起きているかを説明する以上の一定のスキルが必要だ。コース、地域、地元の食べ物・飲み物、文化、チームの戦術すべてについて知りたい。(福岡ステージモニター)

●英語の解説があるYouTubeチャンネルがあると案内されたが分からなかった。(大分ステージモニター)

14. 英語実況の情報は十分でしたか

【回答】十分:43.8%、ますます:28.1%、欠けている:7.8%



(その他意見)

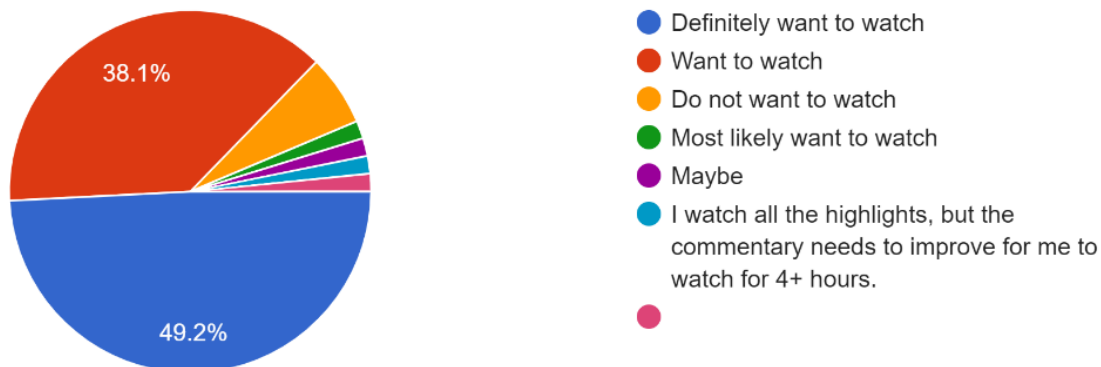
●私は主に日本語を聞いていたが、英語の解説はもっと必要だった。

●予算に限りあることは分かるが、マレーシアで開催のランカウイを参考にされてみてはどうか。地元レースだが、英語で良い仕事をしている。

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

15. レースのアーカイブを視聴したいと思いますか

【回答】絶対に見たい:49.2%、見たい:38.1%、見たくない:6.3%

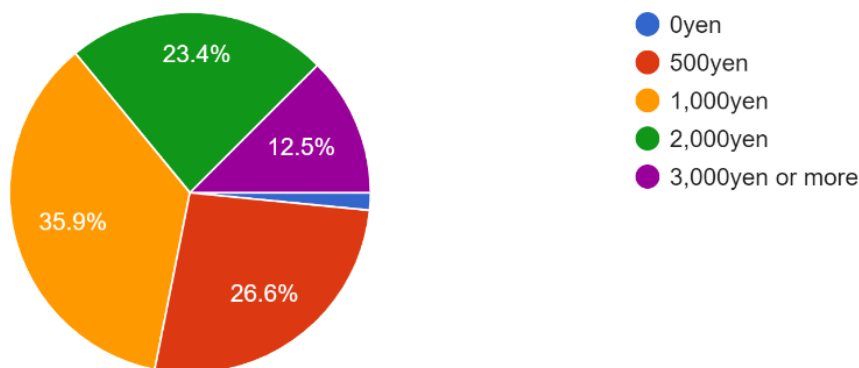


(その他意見)

- ハイライトは全部見るが、4時間以上見るには、解説をもっと良くする必要がある。(福岡ステーションモニター)

16. 今回は無料観戦ツアーでしたが、いくらならば有料でも参加しますか

【回答】1,000円:35.9%、500円:26.6%、2,000円:23.4%
3,000円以上:12.5%、0円:1.6%



3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

17. ツール・ド・九州についてご意見やご要望ありましたら自由に記入ください

●今後も学生が無料で参加できるようにしてほしい。(大分ステージモニター)
●ツール・ド・九州は最高だった、来年も参加したい。(大分ステージモニター)
●こういうイベントをどんどんやってほしい。(熊本阿蘇ステージとみられるモニター)
●とても素敵な経験だった
●選手、スタッフ、ボランティアのみなさま、お疲れ様でした。
●このツアーに参加できてとても興奮している。これほどの喜びと幸せを感じたことはない。自分の国でもこのような体験をできればよい。ありがとうございました。(大分ステージモニター)
●とても楽しい、気持ちが高ぶった。
●英語を話せるスタッフをもっと必要としている。(福岡ステージモニター)
●素晴らしい経験ができた、ありがとう。
●観戦しながらチームを応援するのはとても楽しかった。
●公衆トイレの情報をきちんと提供する必要がある。
●観覧席を設けると、よりエキサイティングで魅力的なものになると思う。
●すべてが順調でスムーズだった。立見でレースを観戦するのであれば、日陰の場所はあればさらに良い。また、大きなイベントなので、特に屋台の周りにゴミ箱をもっと設置すべきだった。(大分ステージモニター)
●待っている間に楽しく時間を過ごせるよう、体験ブースを用意すべき。(福岡ステージモニター)
●多くの外国人が食べ物を注文するのに苦労していた。フードトラックすべてのメニューに英語翻訳があればよい。(福岡ステージモニター)
●日本で自転車レースを観戦するのは初めてだったが、ツール・ド・九州について聞いたことがなかった。もっと多くの人を惹きつけるためには、InstagramなどのSNSでもっと宣伝したり、ポスターや広告物を英語で作成して、日本語があまりわからない人にも理解できるようにすればよい。イベント全体としてはよかったと思う。(熊本阿蘇ステージとみられるモニター)
●会場内の大型ビジョンをもっと設置して、パブリックビューイングをもっと促して盛り上がるようにすべき。(大分ステージモニター)
●良い体験はしたが、(別府から)日田は遠かった。トイレや施設に関する情報がなかった。

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

●私自身、このようなイベントのマーケティングやプロモーションに関わりたい。
●ツアーはとても素晴らしかった。自転車レースには全く興味がなかったが、このイベントはオンラインでも観戦できとても楽しめた、こんなに楽しめるとは思わなかった。今後は他のスポーツイベントにも参加したい。（熊本阿蘇ステージとみられるモニター）
●ただ感謝の気持ち、とてもよかった。
●ステージに近いエリアに、座席と休憩場所をもっと多く設けることを勧める。
●ミールクーポンをディナーにも使えたら良かったと思う。500円や1,000円ぴったりの商品を買うのは大変だったので、クーポンで支払いやすい商品をお店に並べればよかったと思う。
●会場内の英語表記を増やしてほしい。
●企画いただきありがとう、本当に楽しかった。
●ツアーで参加者たちと知り合えたのが一番楽しかった。
●全体的には楽しく、思い出に残る時間だった、来年もまた来たい。
●宗像大社近くのゴールエリアには、食べ物や飲み物の屋台が足りなかった、座る場所も少なかった。また、最初のバス降車場所(岡垣町・芹田興産)からワイナリーエリアまで歩く距離が長すぎると思った人もいたはず。
●スタッフ間の情報共有が不十分だったと思う。（福岡ステージモニター）
●イベントがよく企画されていた、ミールクーポンはありがたかった。有料イベントとして実施される場合もクーポンは含めて販売すべき。（福岡ステージモニター）
●レースコースは素晴らしかった。スプリントが多く、ラップごとにKOMがあり、素晴らしい集団スプリントがあった。（今回の福岡ステージなら）午前10時にスタート地点でゲストパスを受け取り、選手のウォームアップを観てライブの雰囲気を楽しみ、それから観戦エリアに向かえばよかった。観戦エリアの飲み放題は素晴らしい選択肢だが、2,500円取るなら宗像エリアでも使えるようにすべき。お酒を飲みながらレース観戦するという組み合わせを楽しみたいので、急いで飲まなければならないと思わないようにしてほしい。ささいなことだが、飲み物用のタンクを増やしておくべき。最初のビールは最高だったが、その後はビールが冷えていなかった。
●福岡ステージで、特に景観がいいわけではないのに、主催者がなぜこのルートを選んだのか不思議。ただ、ライダーたちが複数周回するのを観ることができたのは、観戦者にとって間違いなく有益だった。
●これまで経験したことがない場所を巡る楽しい一日だった。

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

- 観戦ツアーは良いアイデアだったと思うが、管理や運営の問題が解決すれば、人気のオプションツアーになるかもしれない。ミールバウチャー、リストバンドが何に使用できるかかなり混乱があったように見えた。VIP席のアクセスチケットを受け取ったが、間違いということで返却し、再度受け取った。しかし、結局リストバンドはどこで使用すればよいか分からなかった。ミールバウチャーについても、使用方法が明確に説明されなかった。1枚500円だったが、食べ物は600円や1,200円でお釣りが出なかった。無料観戦ツアーだったので大きな問題にはならなかったが、支払いの際気まずいやり取りになった。もし、私がお金を払って参加したパッケージツアーだった場合、食事券の全額を利用できなかった。支払った価値を得られなかったと感じたはず。配布された英語マップはありがたかったが、レースの概要も記載されていればよかった。サーキットの特徴は何か、なぜ福岡ステージは宗像大社周辺を舞台に開催されたのか、コースレイアウトのどの部分がユニークで挑戦的だったのか。あまり知識のない恋人や子ども、同伴者もたくさんいたので知りたかった。（福岡ステージモニター）
- バスにもう少しサイクリングの雰囲気醸成されていれば良かった。ガイドが乗客に地元のことをサイクリングに結びつけて話してくれたら良かった。サイクリングの経験があり、チームやライダーなどについて調べているガイドがいると今後も有利。配布物が多く配られたが、ひとつにまとめて配布してほしかった。楽しい時間を過ごしたが、よりよいイベントにするためお願いしたい。（福岡ステージモニター）

3.受入方策の実施（Ⅱ）（Ⅲ）参加者アンケート

参加者アンケート結果より、観戦の感想や観戦環境について、多くのご意見をいただきました。

全体的な
感想

楽しかった、活気があった、など、観戦体験について好意的な意見多数。

観戦環境
について

- ・とても暑く、日陰や座席スペースが少ないという指摘多数。
- ・飲食ブースのバリエーションが豊富で楽しめたという意見複数。
- ・トイレや道案内、飲食ブースなど英語表記が不足しているという指摘多数。
- ・ステージやビジョンが見えづらい、ビジョンの数が少ないという指摘複数。
- ・移動中にコースの説明が必要だった、ミールバウチャの使い方が不明瞭だったなど、運営側の管理、問題点を指摘する意見複数。
- ・観戦だけでなく、体験ブースも必要という意見。

英語実況
について

- ・日本語実況、解説の直訳では分かりづらいとの指摘複数。
- ・英語チャンネルを案内されたが分からなかった、観なかったという指摘複数。

その他
意見

- ・大会の宣伝が不足しているという指摘複数。
- ・英語を話せるスタッフが必要という指摘複数。
- ・将来、こうしたイベントのプロモーションに関わりたいという意見あり。

3.受入方策の実施（Ⅳ） サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

【実施日時】10/10(木) -10/13(日)

【主なルート】博多駅～南小国町(熊本県)～九重町・日田市(大分県)
～阿蘇市・南阿蘇村(熊本県)～博多駅

【実施内容】サイクルカーゴで巡る3泊4日のモニターツアー。

期間中、4回のサイクリングと2回のマイナビ ツール・ド・九州2024観戦。

後日、SNSのアカウントを持つ方参加者には、自身のSNS等で情報発信。

【参加モニター数】15名 ※戦略委員ニック・サーズ氏、蓋奇雨氏含む

(性別)男性:10名、女性:5名

(国籍)アメリカ:5名、中国5名、カナダ2名、オーストラリア1名、ドイツ1名、オランダ1名

(ツアー添乗員：熊谷智子 氏)



- ・OFFICE TWINKLE CORPORATION代表
- ・福岡市出身。1998年に同社設立し渡米
日本からハワイのトータルハワイウェディングをプロデュース。
各種イベントやツアー、TV・雑誌などのコーディネートや
ウェディング、イベントにおいてMCとして活躍。
日本からの学生向けに、ハワイウェディング研修や模擬挙式
体験を提供するなど、教育と人材育成に注力。

(サイクリングガイド：中尾公一 氏)



- ・コルナゴ舎 代表
- ・旅館業時代にロードバイクを始め、2019年道の駅阿蘇の
サイクルアドバイザーに就任。阿蘇サイクルツーリズム学校
『コギダス』で、サイクリングを通して阿蘇の魅力を伝える
活動をしている。今回のサイクリングでは、阿蘇九重の
絶景コースを参加者に満喫いただく。

3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

日程表



ツール・ド・九州モニターツアー

・旅行期間:2024年10月10日(木)～10月13日(日)

・集合場所:博多駅筑紫口12:40集合、13:00出発

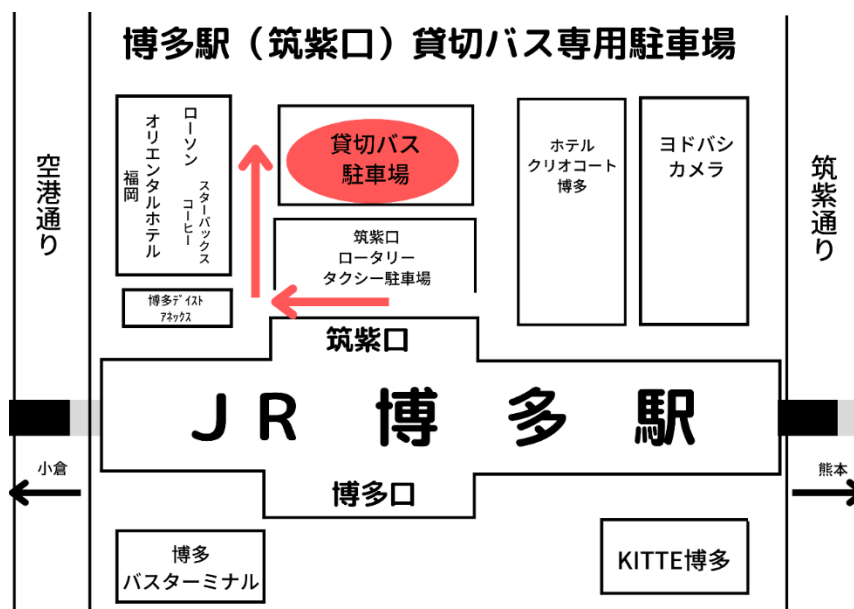
Day	Time	
1日目 10/10 (木)	13:00 15:30～16:30 16:40	博多駅出発 瀬の本レストハウス *レンタルショップあり *瀬の本周辺をサイクリングお楽しみください。 チェックイン(黒川温泉) *黒川温泉街を自由散策 旅館にて夕食
2日目 10/11 (金)	7:50/8:10 8:40 9:30～16:00 17:00	旅館にて朝食 旅館出発(旅館からバス駐車場まで徒歩10分) ・バス移動(約20分) サイクリング:牧ノ戸峠 → 長者原(走行約55km) *早く到着した場合、タデ原温泉の散策もお楽しみいただけます。 ・バス移動(約20分) チェックイン(天ヶ瀬温泉) 旅館にて夕食
3日目 10/12 (土)	7:30 8:15 8:45～10:45 11:00～14:00 15:15～17:00 17:30	旅館にて朝食 旅館出発 ・バス移動(約10分) サイクリング:天ヶ瀬温泉 → 日田市陸上競技場(走行約16km) ツール・ド・九州大分ステージを観戦! ・バス移動(約60分) サイクリング:瀬の本レストハウス → 阿蘇神社(走行約20km) ・バス移動(約10分) チェックイン(ホテル阿蘇の司) ホテルにて夕食(ピュッフェ)
4日目 10/13 (日)	7:00 7:40 8:00～10:30 11:00～13:30 17:00	ホテルに朝食 ホテル出発 ・バス移動(約10分) サイクリング:道の駅阿蘇 → 阿蘇中岳火口 → 米塚園地(走行約28km) *急坂なので、レンタル電動サイクル(E-MTB)を無料でご準備しています。 ・バス移動(約20分) ツール・ド・九州熊本ステージを観戦! 博多駅到着

3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

《特記事項》

- ・上記日程は、交通事情や天候、天災などの不可抗力によりコースを変更、短縮する場合がございます。なお、ツアーが安全に催行できないような悪天候(豪雨、台風、道路凍結など)が事前に想定される場合は、前日の夕方までに中止のご連絡をいたします。
- ・※多少の雨の場合でも、ツアーが安全に行える場合は催行いたします。
- ・転倒等により怪我をする可能性を鑑み、保険は弊社にて加入いたします。
- ・博多駅までの交通費は含まれておりません。予めご了承ください。
- ・今回、メカニックはいません。ポンプは用意しますが、自転車の整備用具や予備タイヤ等はご自身でご持参ください。なお、1日目の瀬の本レストハウスにて自転車の組み立てや調整の時間を設けます。前後のライトも安全のため装着を推奨します。
- ・日中は暖かいです。朝晩は冷え込みます。(特に阿蘇や久住は冷えこみます。)最低気温12℃／最高気温20℃服装や準備物についての情報として、少し寒くなってきたのでベストや長袖アンダーウェア、長袖ジャージ、ウィンドブレーカーがあった方がいいかと思えます。特に中岳火口(1250m)や牧ノ戸峠(1330m)からのダウンヒルはかなり冷えることを想定してください。
- ・各宿泊施設にランドリーはありません。
- ・ツール・ド・九州大会期間中につき、関連車両で道路が混み合います。くれぐれもお気を付けください。

《集合場所》

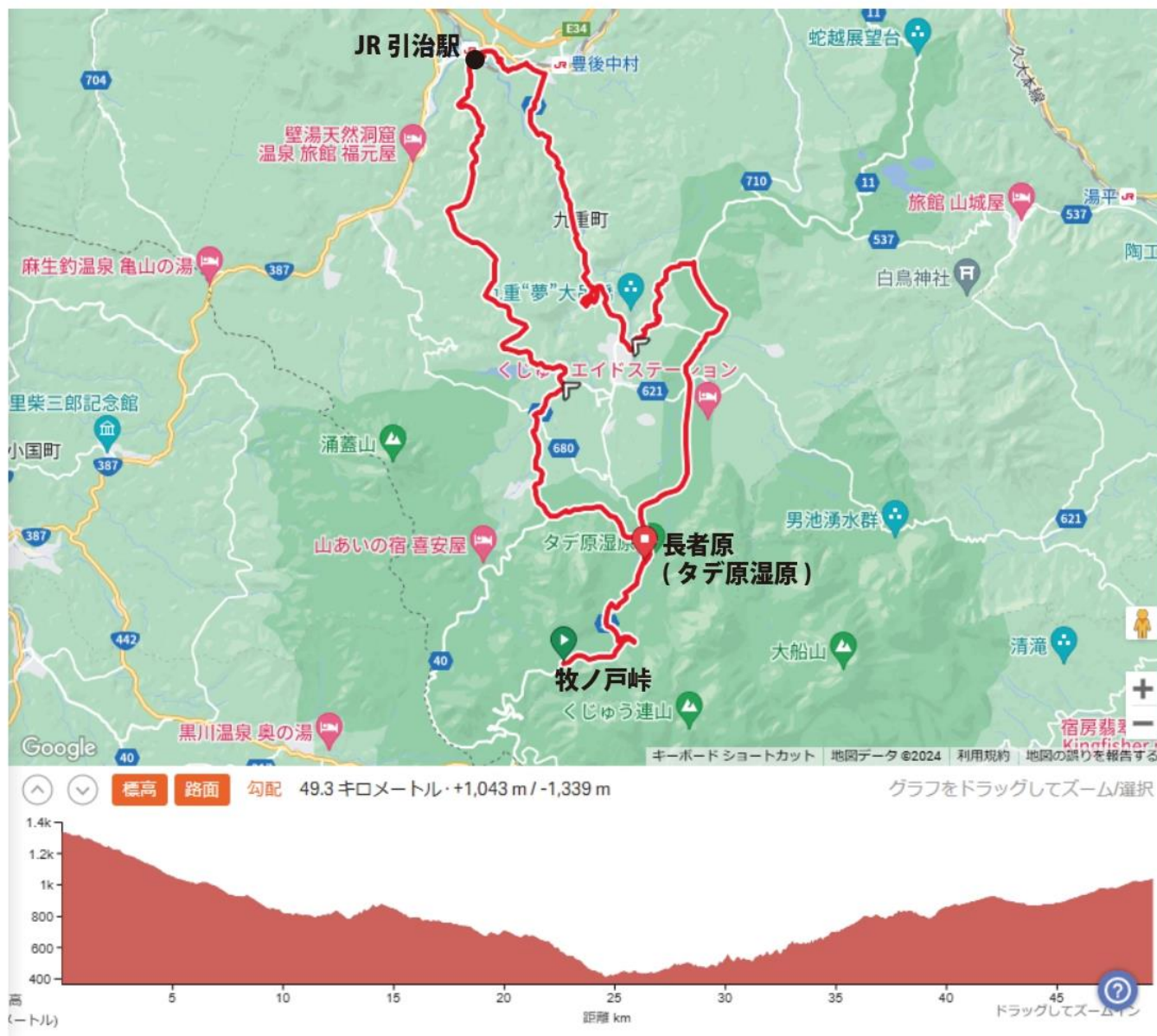


3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

《サイクリングコース》

2日目:10月11日(金)

牧ノ戸峠 ➡ 長者原

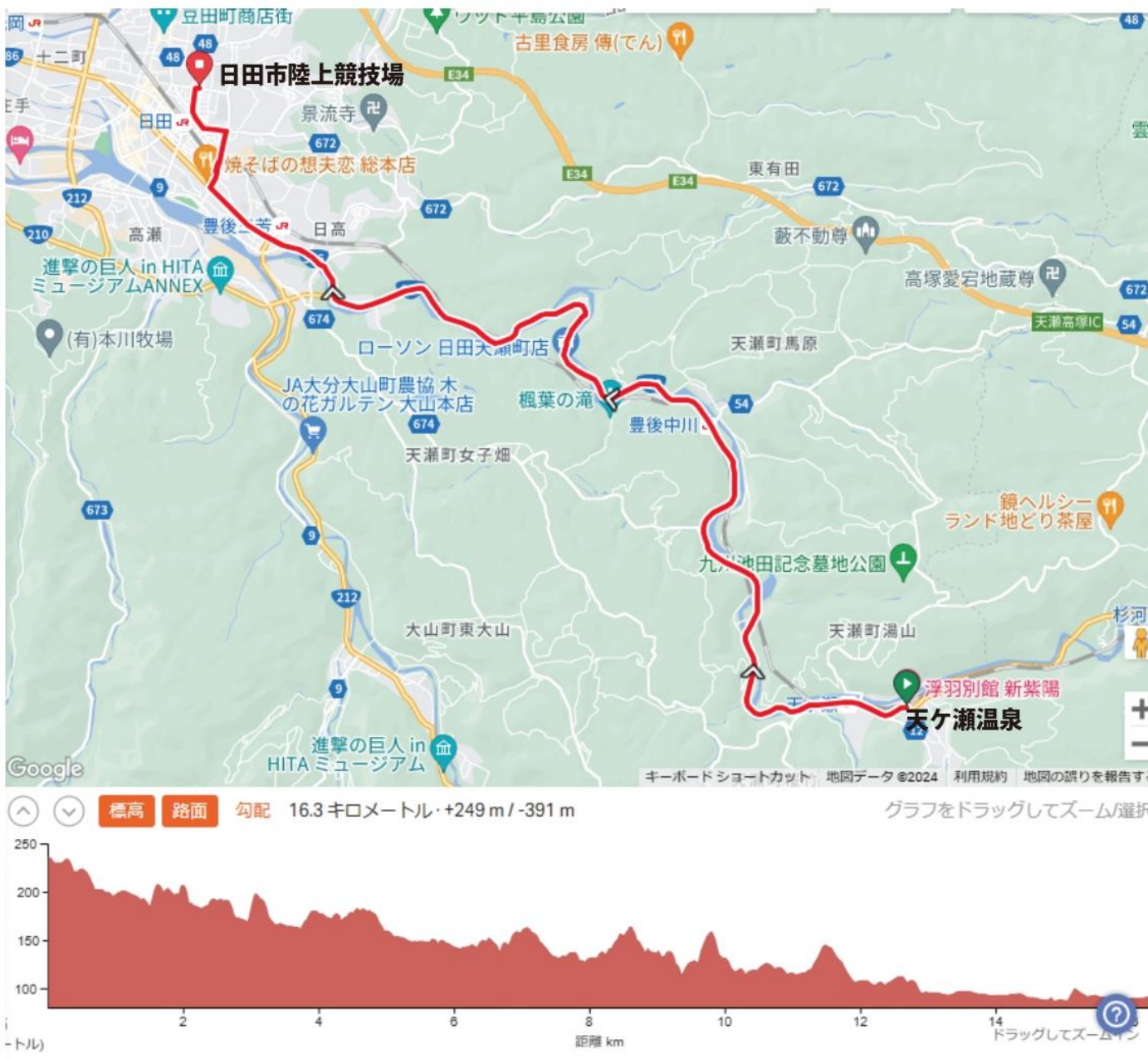


アウトドアファンが全国から集う「牧ノ戸峠」をスタートし、長者原からツールド九州のコース JR 引治駅まで走り、九酔溪や九重夢吊大橋を訪ねて、やまなみハイウェイへ。最後の飯田高原から九重連山に向かうコースは圧巻です。

3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

3日目:10月12日(土),午前

天ヶ瀬温泉 → 日田市陸上競技場



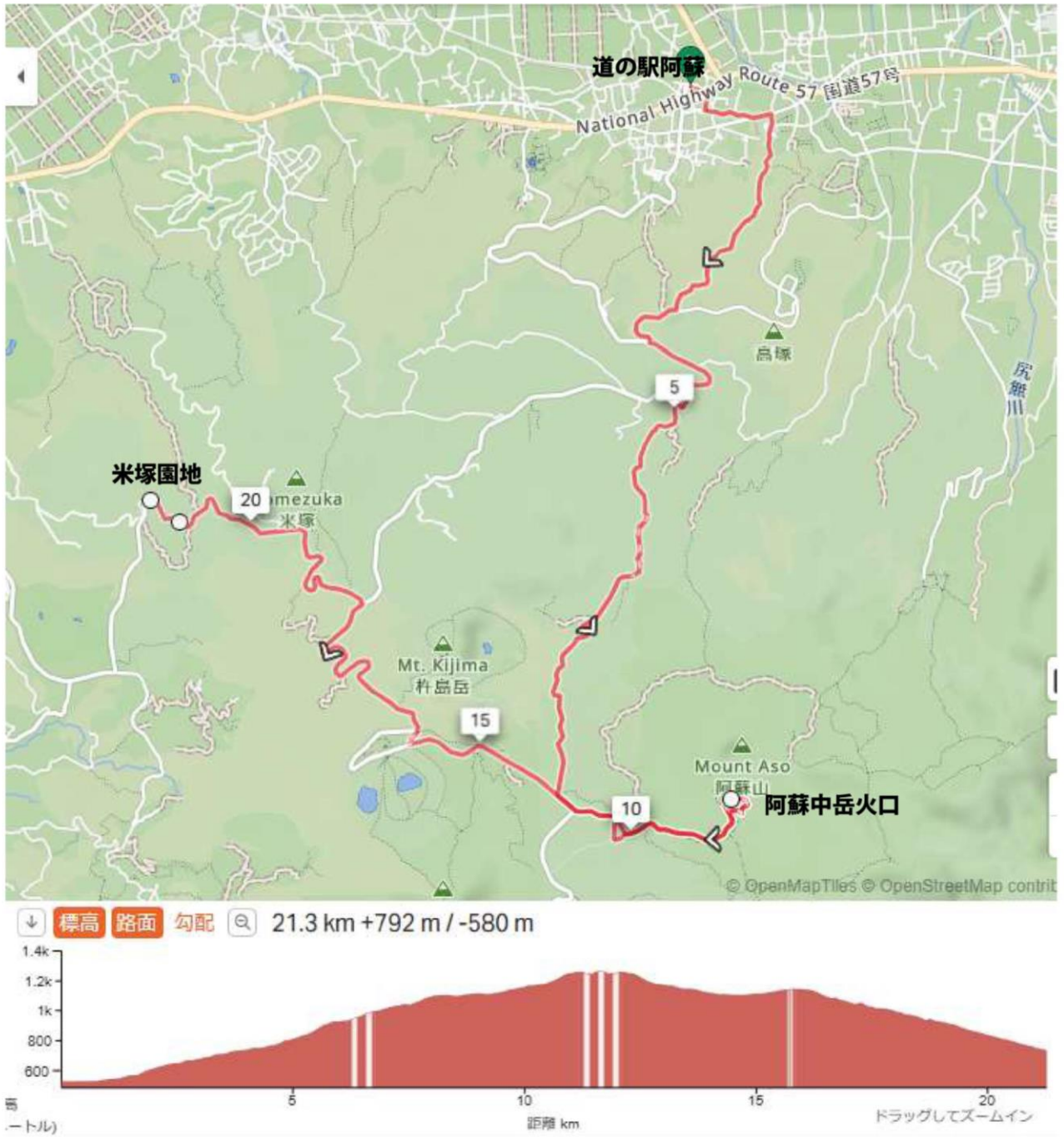
木々深く、川のせせらぎを感じる山間コース。「進撃の巨人」スポットも訪ね、日田市内へ入ります。ツール・ド・九州大会当日のため、日田市役所に近づくにつれて、徐々に賑やかになる様子も楽しめます。

※日田市陸上競技場⇄日田市役所は徒歩約15分かかります。

3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

4日目:10月13日(日)

道の駅阿蘇 ➡ 阿蘇中岳火口 ➡ 米塚園地



阿蘇観光の拠点「道の駅阿蘇」をスタートし、上りが続き、阿蘇パノラマラインの絶景へ。雄大な草原景観を放牧の牛馬を見ながら標高 1,100m の草千里へラストスパート。草千里では噴煙を上げる阿蘇中岳や大きな池など阿蘇の大自然が広がります。休憩後は草原の風を感じる下りコースで米塚園地へ駆け抜けます。

3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

《ツアーの様子》



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

《モニター参加者は、自身のSNS・YouTube(非公開もあり)などで情報発信》



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー



2024年10月11日、金曜日、九重町、大分県

初阿蘇

10K (15:48)

トップ結果

すべて見る

50.44 km **3:51:26** **1,165 m**

距離 移動時間 標高

115 w **1,593 kJ**

最大平均パワー エネルギー消費量

平均	最大
スピード 13.1 km/h	42.9 km/h
経過時間 5:08:27	

Apple Watch SE

© Natural Earth Data © Mapbox © OpenStreetMap Improve this map

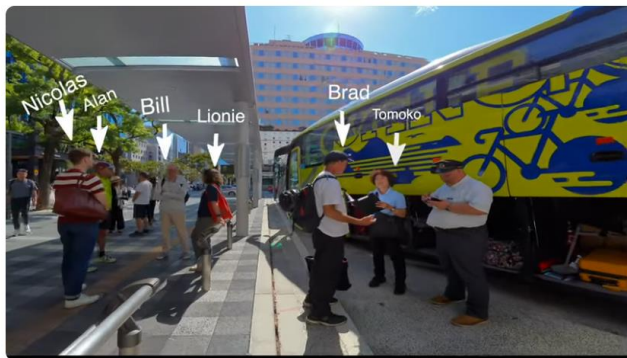
3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー



Tour de Kyushi Monitor Tour

TheClimb_Ks チャンネル登録者 46人

42 回視聴 8 時間前 #tour #cycling #roadbikejapan
 During the second annual Tour de Kyushu, I was invited to Kyushu to experience a demo tour surrounding the race. It was great.
 Organized by TKU and Fukuoka Now, it's a beautiful tour that I hope to join again. For now, please check out this quic... もっと見る



Tour de Kyushi Monitor Tour

TheClimb_Ks チャンネル登録者 46人

42 回視聴 8 時間前 #tour #cycling #roadbikejapan
 During the second annual Tour de Kyushu, I was invited to Kyushu to experience a demo tour surrounding the race. It was great.
 Organized by TKU and Fukuoka Now, it's a beautiful tour that I hope to join again. For now, please check out this quic... もっと見る



Tour de Kyushu Monitor Tour - Day 2

TheClimb_Ks チャンネル登録者 114人

335 回視聴 2 週間前 #roadbike #fukuoka #cycling
 Second day of a tour surrounding the UCI Tour de Kyushu Race. Climbing, descending, and beautiful weather. If you have any questions, drop them in the comment! Enjoy!
 #ロードバイクに旅をしたい #roadbike #roadbikejapan #japan #cycling #fukuoka #cyclingjapan ... もっと見る



Tour de Kyushu Monitor Tour - Day 2

TheClimb_Ks チャンネル登録者 114人

335 回視聴 2 週間前 #roadbike #fukuoka #cycling
 Second day of a tour surrounding the UCI Tour de Kyushu Race. Climbing, descending, and beautiful weather. If you have any questions, drop them in the comment! Enjoy!
 #ロードバイクに旅をしたい #roadbike #roadbikejapan #japan #cycling #fukuoka #cyclingjapan ... もっと見る



Tour de Kyushu Monitor Tour - Day 2

TheClimb_Ks チャンネル登録者 114人

335 回視聴 2 週間前 #roadbike #fukuoka #cycling
 Second day of a tour surrounding the UCI Tour de Kyushu Race. Climbing, descending, and beautiful weather. If you have any questions, drop them in the comment! Enjoy!
 #ロードバイクに旅をしたい #roadbike #roadbikejapan #japan #cycling #fukuoka #cyclingjapan ... もっと見る



Tour de Kyushu Monitor Tour - Day 2

TheClimb_Ks チャンネル登録者 114人

335 回視聴 2 週間前 #roadbike #fukuoka #cycling
 Second day of a tour surrounding the UCI Tour de Kyushu Race. Climbing, descending, and beautiful weather. If you have any questions, drop them in the comment! Enjoy!
 #ロードバイクに旅をしたい #roadbike #roadbikejapan #japan #cycling #fukuoka #cyclingjapan ... もっと見る

3.受入方策の実施（IV） サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

参加者のうち、中国人女性2名、男性1名は中国でインフルエンサーとして活動。投稿に対して、多くの反応あり。

①アカウント名：VKKKKK大魔王

【総フォロワー数】 約304万人(ウェイボー:167万人、レッド:62万人 他)

サイクリング関連の動画・写真を投稿、広告の案件も受ける。



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

ウェイボー、REDでそれぞれポスト(写真投稿)を2回、ビデオ(動画配信)を1回、ビリビリでビデオを1回実施。ビデオは、計約100万回再生を達成。サイクリングモニターツアー後、熊本県内9か所に設置されたアニメ・ワンピースの銅像を自転車で巡った投稿も大反響。



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

②アカウント名:katy

【総フォロワー数】 約1.1万人(レッド:1万人 他)

自転車やバイク、旅動画が多く、今回のサイクリングモニターツアー関連では動画を6本投稿。



9533 12 15 1433
获赞 朋友 关注 粉丝 编辑资料

甜甜两轮驾驶员: 🏍️ 摩托车 | 🚲 自行车
裸辞创业 | 车店主理人 @CYCLE+ 此地 CyPARK
更多内容在 📖 慢骑选手 Katy

女 四川 - 成都 + 添加学校等标签

抖音商城 创作者中心 我的钱包 我的小程序 查看更多

作品 私密 收藏 喜欢



首页 14 + 消息 3 我



3.受入方策の実施 (IV) サイクルカーゴを利用したサイクリングモニターツアー

③アカウント名:Black Mamba

【総フォロワー数】 約0.4万人(レッド:0.3万人 他)

上海のサイクリングクラブ人気メンバー。日常的にサイクリング動画を投稿。
今回、20本の動画・写真を投稿、サイクルカーゴの動画閲覧数は10万超え。



3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

ツアー終了後、参加者に英語表記によるアンケートを実施。



Thank you for participating in the Cycling Monitor Tour. We kindly ask you to answer the following survey. Email Address: Survey

fukuma720@gmail.com [アカウントを切り替える](#)



* 必須の質問です

メールアドレス *

メールアドレス

1.Gender *

回答を入力

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

2.Age *

回答を入力

3.Nationality *

回答を入力

4.Where are you currently living? *

- Japan
- Kyusyu
- Outside of Japan

5.Were you satisfied with the cycling experience?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- その他: _____

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

6.What was the best part of the cycling experience?

回答を入力

7.What aspects of the cycling experience do you think need improvement?

回答を入力

8.How satisfied were you with the hotel and meals?

Very satisfied

satisfied

Neutral

Unsatisfied

Very unsatisfied

その他:

3.受入方策の実施（Ⅳ） 参加者アンケート

9. How satisfied were you with watching the Tour de Kyushu 2024?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- その他: _____

10.How satisfied were you with the food area?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- その他: _____

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

11.How was the real-time English commentary broadcast?

Very satisfied

satisfied

Neutral

Unsatisfied

Very unsatisfied

その他: _____

12.Was the information provided in the English commentary sufficient?

Very satisfied

satisfied

Neutral

Unsatisfied

Very unsatisfied

その他: _____

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

13.Would you like to watch the race archives?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- その他: _____

14.This time the monitoring tour was free, but if it were a paid tour, how much would you be willing to pay?

回答を入力

15.How satisfied were you with the overall Cycling Monitor Tour?

- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- その他: _____

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

サイクリングモニターツアーに参加の13名(戦略委員2名除く)から回答を得られた。

1. 性別

【回答】男性:8名、女性:5名

2. 年代

【回答】20代:1名、30代:5名、40代:4名、50代:3名

3. 国籍

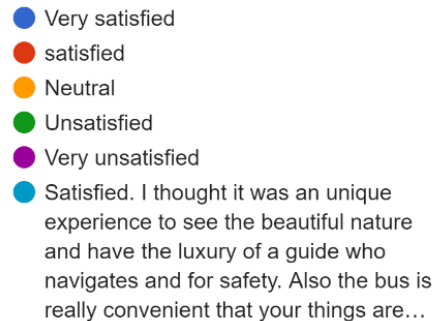
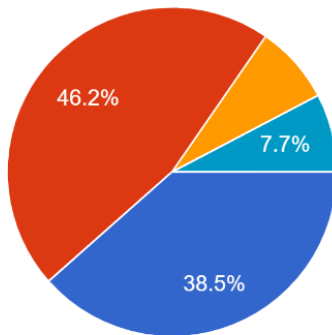
【回答】アメリカ:5名、中国:4名、オーストラリア:1名、カナダ:1名
オランダ:1名、ドイツ:1名

4. 居住地

【回答】九州:5名、九州以外国内:5名、国外(中国):3名

5. サイクリングは満足できましたか

【回答】とても満足:5、満足:6、普通:1



(その他意見)

- 満足した。美しい自然を見ながら、ガイドがナビゲートしてくれて贅沢を味わうことができ、ユニークな体験だった。バスは荷物を運んでくれてとても便利だったし、気分が悪くなったり疲れたりしても常にバックアップ体制が整っていた。ツール・ド・九州は観ていて素敵なイベントだったが、サイクリング自体が良かった。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

6. サイクリングで特に良かった点を教えてください(自由記述)

●素晴らしいサイクリングルートと素晴らしいホテル
●金曜日と土曜日のサイクリング
●この旅で一番良かったのは最終日。サイクリング環境は素晴らしく、火山(阿蘇中岳火口)も壮観だった。ゴールラインを超えるレースはとてもエキサイティング
●阿蘇地方の美しい風景と交通量の少なさ。楽しく、常に安全の中で体験できた。
●サイクリングの後、温泉に入るのは最高。ホテルは一貫して清潔で快適だった。バスのおかげで、自分では行けないような場所を訪れることができた。特に黒川温泉のホテルで自然に囲まれている感覚は最高だった。2日目のルートは私のお気に入り、初心者でも経験者でも、難しすぎず簡単すぎず、ちょうどよい難易度だった。ランチの場所も渓谷の素晴らしい景色が見える美しい場所にあり、この日がツアーのハイライトだった。地形の変化が楽しかった。尾道は有名だが、とても平坦で初心者に適している。阿蘇は美しくある程度の難易度があり、チャレンジを楽しむサイクリストにとってより楽しいものになっている。サイクルカーゴのドライバーもツアーのハイライトのひとつ、グループ全員を元気づけてくれる素晴らしい人柄だった。九州の暑さの中では、バスにドリンクを常備させることは必須だった。コンビニが少なく、出発前に飲料を手に入れていることは良かった。
●サイクリング自体と阿蘇周辺の自然、本当に美しかった。バスも大きなプラス。
●クライミングの挑戦と景色を楽しめたこと
●美しく挑戦的なルート、温泉旅館での滞在、食事とお風呂は快適な環境がとても良かった。自転車をバスに乗せて移動できたこと。
●素晴らしいグループの人々と出会い、一緒に素敵な時間を過ごすことができた。サイクリングももちろん楽しかったが、参加者のおかげで本当に特別な体験となった。
●九州の素晴らしい田舎を体験できたこと、熱心なサイクリストと楽しくやりがいのあるサイクリングをシェアできたこと。素晴らしい温泉のある素晴らしい宿泊施設に泊まることができたこと。
●サイクリングをしながら九州の素晴らしい景色を楽しむこと。
●田舎道をサイクリングできたこと。
●景色を楽しむこと、友達と一緒に旅行できたこと。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

7.サイクリングで改善してほしい点を教えてください(自由記述)

<p>●大分のサイクリングルートはまず登ってから下るルートがお勧め</p>
<p>●主催者がStravaにアカウントを設定すれば、すべての高度データを含むコースをライダーに送信できる。 ※Strava:フィットネスアクティビティ記録用のwebサービス。GPSを利用したサイクリングやランニングの記録ができる。</p>
<p>●このツアーには様々なレベルのライダーが参加した。通常は問題にならないが、経験の浅いライダーにとっては地形が難しすぎる場所もあった。そのため、経験豊富なライダーにとっては何度も止まったり、通常よりも遅く走らなければならなかった。経験豊富なライダーにとってゆっくり走ることは非常に困難。</p>
<p>●送られてきた資料には、e-MTB自転車が利用可能になると記載されていた。利用可能という言葉は、選択肢があることを意味する。私は個人的にe-bikeに乗るという考えは好きではない。実際e-bikeは小さすぎた。サイズの合わない自転車に乗ると、けがをするおそれがある。</p>
<p>●大分のルートは、下り坂から上り坂のルートだったので少し不安だった。通常のコースルートは上り坂から下り坂。</p>
<p>●旅行自体が少し急いで計画されていた。サイクリングにもっと時間があり、ホテルも毎日変えなくてよかった。</p>
<p>●ツアーの主な対象者が誰なのか、そして何を優先しているのかを理解することが重要。自分の自転車を持ってくる人であれば、ルートを探したり、ホテルを予約したり、交通手段を手配することも厭わない、レンタル自転車に依存する人はオールインワンのパッケージを求める、そこを考慮することが大事。</p>
<p>●必要なギアをレンタルできる体制を取っておくことは不可欠。旅行を楽しもうとするときに機械的な問題が発生するのは誰もが嫌。私たちのレンタルはひどいものではなかったが、素晴らしいといえるものではなかった。欧米からの観光客に対応する大型サイズの自転車の在庫が限られていて、上り坂を登るのが困難など自転車に機械的な問題がいくつかあった。ツアーの開始時にレンタル品を受け取る体制を整えるのもいいと思う。福岡には在庫がもっとあるはず。高品質の装備をレンタルできるならば、お金は高くても喜んで支払う。</p>
<p>●到着した日はレンタルバイクの受け取りとグループと装備に慣れることにかかなりの時間を費やし、サイクリングがほとんどできなかったのがもったいなかった。</p>
<p>●ニックはサイクリング中、事実上の主催者・コーディネーターとして素晴らしい仕事をしたが、それは彼本来の仕事ではない。理想的には、参加者の懸念や問題を理解できるニックのような人(サイクリングの経験はあるが、必ずしも上級者ではない)がいた方が良い。ツアーガイドのトモコさんは素敵だったが、ツアー中の活動について何も知らないのは明らかだった。</p>

3.受入方策の実施（Ⅳ） 参加者アンケート

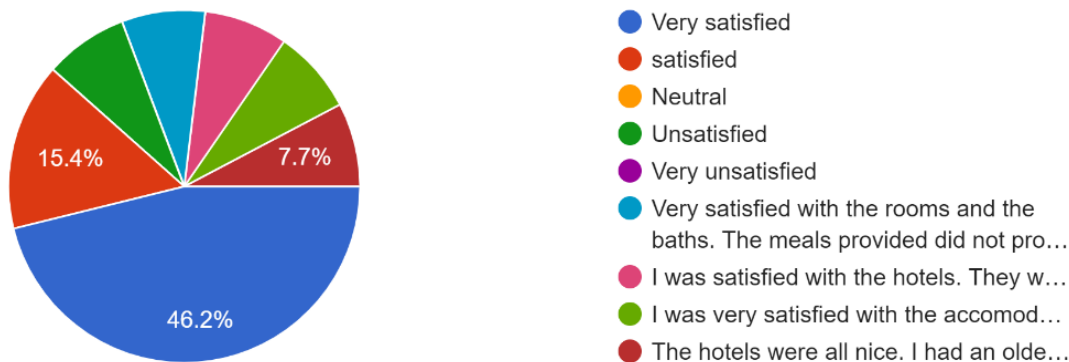
- ツアーやホテルに向かう途中、コンビニへの立ち寄りを計画しておくといよい。夜や翌日に備え、プロテインバーやグミ、ドリンクなど補充することができる。
- ホテルの食事は素晴らしく、初日と2日目は伝統的な日本料理だったが、食事制限の要望に応じてもらえなかった。私自身は魚介類をあまり好きではないが、ホテルの夕食の約80%が魚介類だった。魚介類NGと記載されたメニュー表が添えられていたにも関わらずこのメニューは少しおかしいと思った。
- 懐石料理自体は素晴らしい体験なのでぜひ取り入れてほしいが、2晩続けて食べるのはちょっとやりすぎ。問題のひとつとして、長距離のライドでは1,000キロカロリー以上消費するのに、懐石料理でエネルギーを回復するのに十分なカロリーを摂取できない。懐石料理は外すべきではないが、1晩で十分だった。特に長距離ライドの後は、カロリーの高いオプションがあると良い。
- 景色が素晴らしいルートだったが、最後はもう少しエキサイティングでも良かった。公式のレースコースを走ってゴールラインに到達すればとてもクールな体験になったと思う。素晴らしい写真撮影の機会がありよかった。
- ツール・ド・九州のフィニッシュを実際に観たり、イベントエリアをチェックするのは楽しかった。初日のクリテリウムも観たかった。ライダーをととても近くで見ることができ楽しかった。ただ、観戦体験は単調なので1日で良い。その他は、移動中やホテルでライブ配信を見ればよい。
- ターゲット層を明確にすべき。初心者には観光を多く、ロードライダーには、上りやその他チャレンジを多く用意すべき。
- ツアーは特定の参加者をターゲットにする必要がある。長くてチャレンジングなライドをしたいというサイクリストの中には、短いライドや電動バイクを使うことに少しがっかりした人もいたと思う。逆に写真を撮ったり、ギフトショップに行くことに時間を費やし、ゆっくりライドしたいという人もいたと思う。事前のマーケティング資料では、どのようなタイプのライダーを対象にしているかを明確にする必要がある。連絡いただければもっとフィードバックを送る。ツアーに招待いただきありがとうございます。
- コース設定、朝一番にダウンヒル20キロをするのはあまり良くない。寒くてリスクが高い。登りきってからダウンヒルをするのは気持ちいい。
- サイクリングルートのデジタルバージョンを入手し、休憩場所を明確に表示しておくとい便利。そうすることで、参加者が自分のペースでサイクリングできるようになる。サイクリングを延長したい人は、ルートを辿って戻ることができる。サイクリング初日は立ち止まる場所が多すぎたと感じた。遅れている人は、待つために立ち止まっている人のことを気にして、息を整えるのに十分な休憩が取れなかったと感じた可能性がある。理想的にはトイレのある場所をポイントとし、自分のペースでサイクリングできるようにすればよい。日本におけるサイクリングエチケットをスタート前に簡単な概要を説明しておくといよい。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

- 初日、2日目の宿泊施設の食事は、私にとって少々難しかった。ベジタリアンのため選択肢が非常に限られていて、ほとんどの料理が同じものの繰り返しで、タンパク質が不足していた。最終日のビュッフェは、食べ物の選択肢が豊富で本当に楽しめた。このスタイルの食事がよく合っていた。
- 自転車のオプションを改善する必要がある。私がレンタルした自転車は小さすぎて、最初の2日間のサイクリング、丘陵地帯でのサイクリングは非常に困難だった。e-bikeも小さすぎた、外国人をターゲットにしたツアーの場合、より大きな自転車を用意する必要がある。自転車は、ライダーの安全と楽しみのため、非常によく整備・メンテナンスされている必要がある。
- サイクリングツアーを成功させるには、サイクリングに重点を置いた愛好者向けのツアーか、観光を重視した気軽なツアーのどちらに重点を置くか明確にすることが重要。九州の美しい自然を走ることを考えると、前者には海外（シンガポール、マレーシア、オーストラリア、中国）からのライダーを惹きつける可能性が多いにある。自分の自転車を持参する愛好者を惹きつけることができれば、レンタルの問題も回避することができる。サイクルバスは移動に便利だが、バスの乗り降りなしで宿泊先から出発・到着するなど、乗り換え回数を最小限に抑えるとよい。走行コースに関しては、各日の予定走行のマップを配布されることを期待する。

8. ホテルや食事の満足度を教えてください

【回答】大変満足：6、満足：2、満足できなかった：1、とても満足できなかった：1



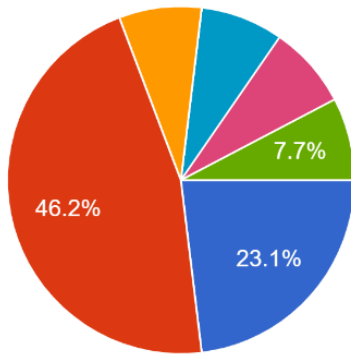
(その他意見)

- 部屋と風呂には満足したが、食事は運動に十分なカロリーを摂取できなかった。サイクリストは高カロリーの食事を摂る。しかし、食事はとてもおいしかった。
- ホテルには満足した、常に清潔だった。しかし、食事に満足できなかった。
- 宿泊施設には非常に満足したが、食事に不満な点があった。
- 阿蘇のホテルが古く、海外から九州に来るライダーには魅力的でないかもしれない。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

9. ツール・ド・九州2024を観戦した満足度を教えてください

【回答】とても満足:3、満足:6、普通:1



- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- Satisfied but sometimes the time at the event was a bit too long.
- I'm not a huge cycling fan, but I really did enjoy observing the events more t...
- I enjoyed seeing the finishes. It is a mi...

(その他意見)

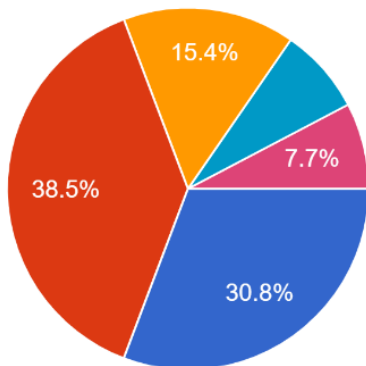
●満足だが、イベント(観戦)の時間が少し長すぎた。

●サイクリングの大ファンというわけではないが、観戦して楽しかった。

●ゴールを観るのは楽しかった。マイナーなレースなので、海外のサイクリストを惹きつけるには、レース観戦よりも九州での実際のサイクリング体験の質の方がはるかに重要。5~7日のサイクリングツアーであれば、秋には多くのグループが集まるかもしれない。

10. フードエリアの満足度を教えてください

【回答】とても満足:4、満足:5、普通:2



- Very satisfied
- satisfied
- Neutral
- Unsatisfied
- Very unsatisfied
- It was fine. If e we had a designated seating area, it would be helpful.
- I thought some of the vendors had some good options, especially at the first place; Though I would say the coffee...

(その他意見)

●良かったが、指定の座席エリアがあれば尚良かった。

●コーヒーの選択肢があまり良くなかった。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

11. 英語実況のリアルタイム配信はいかがでしたか

【回答】とても満足:2、満足:2、普通:3、視聴していない:3



(その他意見)

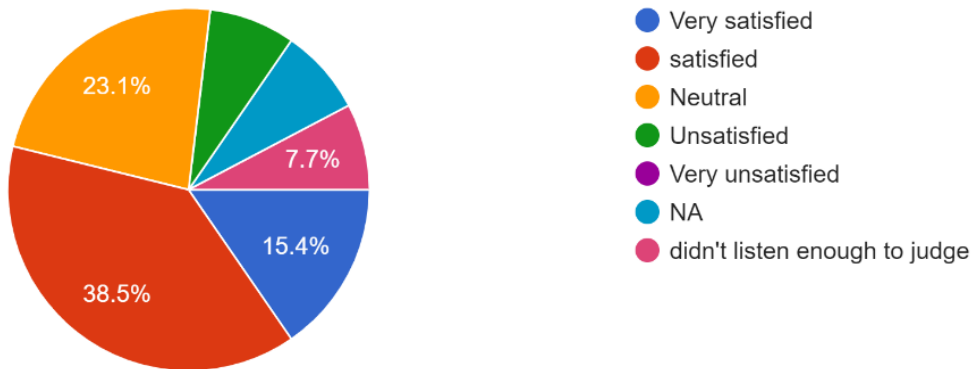
●日本語の解説そのものが良くなかった。実況もライダーやチームの情報を提供していなかった。英語の翻訳は、日本語の解説者が言ったことを翻訳していた。それ自体は問題ないが、西洋のサイクリングファンにとっては不十分。

●英語のYouTubeチャンネルで視聴したが、提供された情報は十分だった。

●日本語配信の翻訳だったが、完全に別の英語実況・解説の方が良かったのではないか。

12. 英語実況の情報十分でしたか

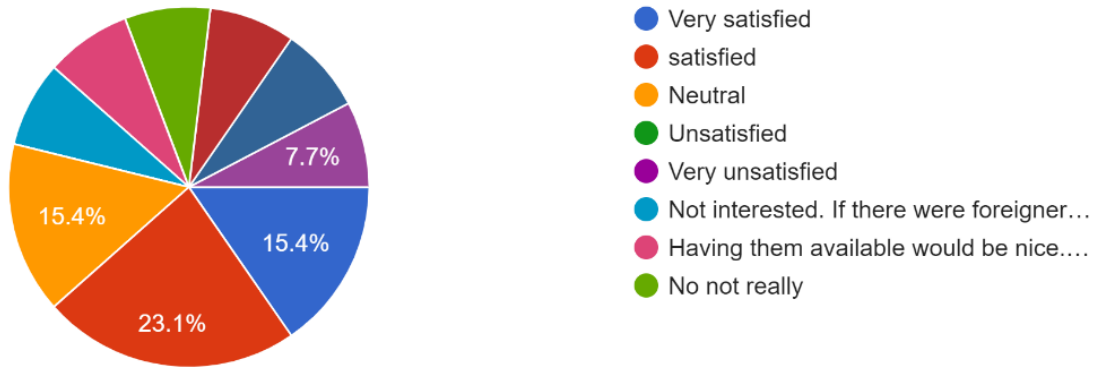
【回答】とても満足:2、満足:5、普通:3、視聴していない:3



3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

13. レースのアーカイブを視聴したいと思いますか

【回答】ぜひ視聴したい：2、視聴したい：3、どちらでもない：2、視聴しない：3



(その他意見)

- 興味ない、外国人がきちんと解説していれば改善されると思う。
- 3つのステージのツールがStravaなどの標準アプリにルートとして公開され、愛好家が簡単にフォローできるものになれば良い。
- レースのアーカイブとは何を指しているか分からない。

14. 今回は無料のサイクリングツアーでしたが、有料ならいくらお支払いしますか

- 難しい質問だ。スタッフは親切で、グループも楽しかった。でも、自費でツアーに参加することはないと思う。私はかなりアクティブなサイクリストなので、ツアーはサイクリングにもっと重点を置くか、レースとの繋がりをもっと持たせる必要があると思う。例えば、レースディレクターや数人のライダーに引き合わせるなどです。外国人サイクリストは日本のサイクリング、ライダーをフォローしていないので、興味をそそる紹介が必要。
- スタッフは皆、フレンドリーで親切だった。少し手を加えれば素晴らしいツアーになる。
- ツアーのスケジュールがもっと柔軟になると良い。トラブルの原因にもなるので、ホテルを毎日変えるのはやめた方がよい。これらの問題が解決できれば、3,000～3,500ドルを払ってもよい。
- 日本円で40万円
- 日本円で20-25万円

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

●日本円で20万円

●ホテルや食事の質にもよるが、1人1日3万ルピーを取るのは難しい。

●私がトップクラスのツアーと判断する基準は、Trekが提供するツアー。料金は1日あたり1,200～1,500ドル。今回のツアーでは、自分の自転車を持ち込みことができ、目的地(宿泊先)はTrekツアーほど高価ではないため、ある程度柔軟に考える必要がある。オプションにもよるが、1人1日あたり900～1,200ドルが魅力的な範囲内。

●1日あたり1,000ドル。同等のツアー料金を考えると、これは非常にお得。

●全体的に素晴らしい体験だった。宿泊施設と食事は最高、サイクリングルートも計画されていて、田舎の景色も素晴らしい。サイクルバスは運転手含めて最高だった。もっと良い自転車があれば尚良かったが、私の気分を損ねることはなく、素晴らしい時間を過ごせた。おそらく2,000豪ドルぐらいかと思う。自分の自転車を持参するか否かにもよると思う。

●日本円で30万円

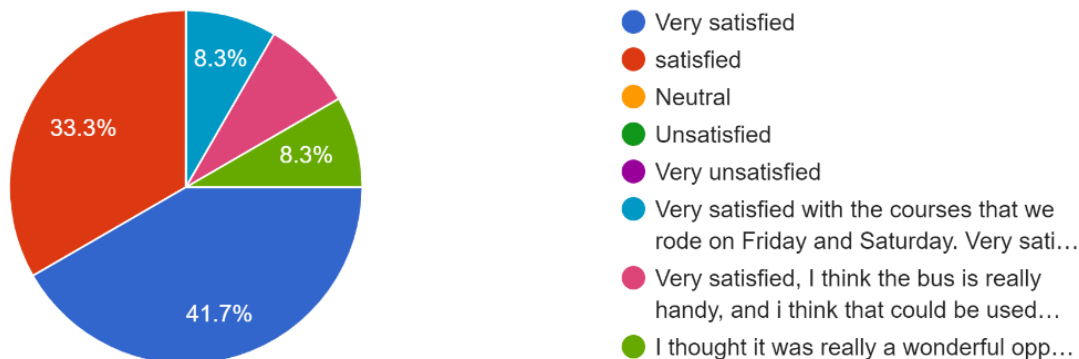
●日本円で1日あたり3～4万円

●ツアーが熱心なサイクリスト向けに調整されたらとても興味がある。友人たちは、富山・長野に来るオーストラリアのライダーのために、ツアー企画を手伝ってくれた。彼らは、メルボルンのサイクリングクラブのコミュニティに働きかけることで、すでに15人ほどの参加者を集めることができた。1週間のツアーで2,000～3,000ドルぐらいが妥当ではないか。2人部屋ならもう少し安く。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

15. サイクリングモニターツアー全体の満足度を教えてください

【回答】とても満足:6、満足:4



● 走ったコースや宿泊施設に非常に満足している、中立的でも不満でもない、ありがとう！

● とても満足している。サイクルバスは本当に便利。サイクリング初心者やアクティブな休暇を楽しみたいけれど、贅沢もしない年配の人にもっと利用してもらえるツアー内容だった。ガイド付きツアーと組み合わせて、途中で神社など観光地を訪れてみては、もっと有益になる。

● 本当に素晴らしい機会だった、参加できてとても嬉しい。最終日は電動バイクではなく、自分の自転車に乗りたかった、もっと時間が必要だった。

3.受入方策の実施（IV） 参加者アンケート

参加者アンケート結果より、観戦の感想や観戦環境について、多くのご意見をいただきました。

全体的な感想

- ・とても満足している、サイクルカーゴを利用した特別な体験など好意的な意見多数。

サイクリングについて

- ・阿蘇など美しい九州の自然の中サイクリングは楽しいという意見多数。
- ・安全が確保された中でサイクリングができたという意見複数。
- ・サイクリングレベルが違う参加者が一緒にツアー参加するのは難しい、ツアー参加者のターゲットを明確にすべきという指摘複数。
- ・自分の体格に合うレンタル自転車がなかった、必要なギアをレンタルできる体制を整えておく必要があるという指摘複数。
- ・サイクリングコース設定に関する指摘複数。
- ・サイクリングを記録できるアプリなど導入して、コースや地形を把握してサイクリングを楽しみたいという意見あり。

宿泊・食事について

- ・食事はおいしいが、懐石料理が続くとカロリーが足りないという指摘複数。
- ・NG食材についてミールコントロールできていないという指摘あり。
- ・(温泉や大浴場など)日本式の風呂に対する否定的な意見なし。

観戦環境について

- ・とても満足、満足含めた好意的な意見多数。
- ・観戦体験は単調なので、(二日間あったが)一日で十分という意見あり。

英語実況について

- ・情報が不十分という意見複数。
- ・日本語の直訳でなく、英語独自の実況、解説が必要という意見あり。

2.戦略会議④ 12/12 第四回戦略会議

開催日時

12/12 (木) 14:00~16:00

開催場所

九州日仏学館

出席者 ※順不同、敬称略

ニック サーズ	戦略委員	
近藤 アマンディーヌ	戦略委員	
三好 礼子	戦略委員	
山田 大五朗	戦略委員	
飯島 誠	戦略委員	
蓋 奇雨	戦略委員	
仲谷 隆造	戦略会議メンバー	(一社)ツール・ド・九州
大坪 元気	戦略会議メンバー	福岡県
工藤 健裕	戦略会議メンバー	熊本県
進藤 昭洋、西脇 考志、田中 敏也、 嶋田 淳一、大槻 伊織	戦略会議メンバー	九州運輸局
大川内洋介	戦略会議メンバー	福岡県観光連盟
	事務局	(株)TKUヒューマン、 (株)テレビ熊本

議事内容

1. ツール・ド・九州2024について
2. 受入方策 実施報告 (Ⅰ)観戦モニター企画、多言語化について
(Ⅱ)サイクリングモニターツアーについて
(Ⅲ)大会車列等からのレース観戦について
3. 受入方策実施を終えて
4. 今後の展開について

戦略会議 議事録

1. ツール・ド・九州2024について

仲谷隆造 氏 事故なく、天気にも環境にも恵まれ、開催することができてよかった。すでに来年の準備に入っている。来年は長崎スタート、九州の西の海をみて東に進み、宮崎・大分へ。事業規模も大きくなる。より良い大会にしていきたい。

2. 受入方策 実施報告 – 観戦モニター企画、多言語化について

近藤アマンディーヌ 氏 家族と一緒に楽しく、熊本阿蘇ステージは太鼓演奏やくまモンステージもあり、こどもも楽しめた。日田は駐車場が遠く、会場までの案内がなく、困っていた人もいた。食べ物はブースが多く良かった、海外の方は水(ウォーター)を飲む、お茶やコーヒーよりも飲む人が多いので、もっと販売しておいてほしい。

三好礼子 氏 福岡ステージ、九州日仏学館からもフランス人2名参加させていただいた。(※アンケート有効回答者64名に含まれていたこと確認済み)大会中は通訳をして、選手の様子やにぎわい会場を観ることができた、楽しいイベントも行われていて、待っている間も楽しめたのではないかと思う。暑さを避けるところがなかったのは確か、食事をできる場所があればよかった、熊本は日陰もなかった、スクリーンの前で座って観戦もした、ご飯を買うときに通訳することがあった、メニューが豚(肉)か鳥(肉)か分からない、イラストがあれば見てわかるのでありがたい。

山田大五郎 氏 競技の魅力の伝えかたが大事、選手が通りすぎるだけになる、距離を埋めていくことが大事。選手を知らないと遠く感じる。私に関わったイベントでは、プロ選手に来てもらい、スタート前のバックヤードツアーを行った、選手の方から声をかけることで会話が生まれ、選手との距離感が縮まった、とても重要なことと強く感じた。サイクリストとしての要望は、国内サイクリストマーケットが停滞し、選手・愛好者とも減っている。ツール・ド・九州が海外から来てもらって国内を盛り上げると包括的に考えていただきたい。アウトバウンドの視点では、現地のサイクリストと走るという経験が面白い。それを日本で実施しようとするとなかなか人が集まらないという現実があるが、海外の選手が(イベントに)参加し、インバウンドの方向けにも実施し、英語フランス語で話すというには選手にとってもいい状況になるのではないかと。

ニック・サーズ 氏 アクセスと交通が気になった、福岡ステージでも、福岡市内から宗像まではお金がかかる、無料のサービス(シャトルバス)があればよい。暑さ対策はテントなどでできるのではないか、水が飲める場所もあった方がよい、ファンゾーンにいかななくてもレース途中で観戦するところもあるのではないか、そういう場所でも観戦しやすい、おすすめの観戦ポイントがあれば情報発信してもよいのではないか。参加者はイベントとしては楽しんでいて。宗像の場合はモニター参加者の3~4割は、元々サイクリングに関心がある人だったが、ただスポーツイベントを観るという意識の人も多かった。オペレーションで時間ロスがあった、それはブラッシュアップできること。ツール・ド・九州はポテンシャルが十分にある、良かったと思う。体験できる、交流、コンテンツがあればよい。

蓋奇雨 氏 4名を連れて参加した、観戦について食事は良かった、プロの選手が走ることの観戦体験は新鮮だった。大分、熊本は環境が違った。大分はレースの沿道に立って観戦したが、周回していつゴールか分からなかった、解説が必要だった、参加者が困惑していた。熊本ステージは座って観戦できた、遠くから選手が走ってくる様子やゴール前のスプリントも観ることができた、素晴らしいスポットだった。

飯島誠 氏 昨年に比べて天気も良く、メンバーもよかった。選手たちが大会を盛り上げた。会場は盛り上がったと思うが、情報があまり入ってこなかった、会場からのレポートがあれば良かった。サイクルロードレースの特徴として、ずっと競っているわけではない、勝負どころのコースを事前に走ってVTRとして差し込む、競技の臨場感を厚みをもって伝えることができるのではないか、いつかは会場から中継したい。

蓋奇雨 氏 会場内で、(手元のスマホで)YouTube配信は観ない、Wi-Fiを渡してもらったが観なかった。会場に滞在する時間に制限がある、イベント、食事、観戦をするから時間がない。ゆっくり観戦する、盛り上がるということはなかった。

ニック・サーズ 氏 野外でライブイベントなのに(手元のスマホで)観るのはすぐわない、大型モニターであれば観る。国際的なセミナーに参加した際、プレゼン中AIを使って同時通訳プログラムがあった、リアルタイムで文字を出していた、それは(会場内のビジョンでも)必ずできるのではないか。

山田大五郎 氏 同時配信は周回コースになったとき展開を観るには良かった。観戦者への周知・見せ方を考えるべき、QRコードを現場に貼っておくなどして、視聴者を増やす策を講じることも大事ではないか。

2.受入方策 実施報告 - サイクリングモニターツアーについて

蓋奇雨 氏

景色良い、温泉良い、そして選手と同じホテルに泊まったのが新鮮、リアルな状態を見ることができた。また、『ワンピース』、『弱虫ペダル』のアニメが中国で流行っていて、くまモンも知られている。(自転車で)走る、観戦する、食事する、お土産買う時間も必要でタイトだった。問題点はコースの作成、私たちは年間通してこういうサイクリングツアーのコース作成、プランニングをしていた、(コースは)最初に上って下るのが合理的。この点はインフルエンサーからもコメントあった、ツアーを作るのは、ターゲット層、コースをよく考えた方がよい、途中の移動時間が長かった。中国では、自分の自転車を持ってくるといことも多いので、レンタルはなしで自転車をもってきて移動するというツアーを作ってもよいのではないか。それはターゲット層の設定にも繋がる話ではあるが。解説は足りない、レースのコース説明だとか。私は、今回のモニターツアーのターゲットは九州の観光を楽しむという初心者を想像していたが、(参加してみると)ある程度経験のある方向けに作ったツアーであると感じた。九州に関する説明が足りなかった、自分自身も足りていなかったが、参加者の質問に答えられなかった。バスの移動中に九州のイメージを伝えるということをやった方がよい。同じタイミングで中国の試合があった、中国でロードバイクが盛り上がってきてからはじめてといえるプロが走るツアー、オフィシャルアカウントをレッドで作っていて、力を入れて宣伝をかけて実施した。ツールド九州のオフィシャルのインスタでは、あまり動画がなくほとんど写真、ショート動画やドローンで撮った映像も入れた方がよい。中国での投稿を見ると、オフィシャルアカウントで選手との接触、会話の動画も出していた。そうすることで皆が盛り上がる。今回のモニターツアーの動画、その発信も必要だった。ツアーを組むガイドが写真を撮るように促すことも必要だった、今後の宣伝にも繋げていくことが大事。

ニック・サーズ氏 総合すると満足、九州のサイクリングを喜んでいて、観戦、サイクリング自体のポテンシャルは高い。ツアーを組む場合は参加目的、期待することを絞らないとダメ。ある方は目的はスポーツ、サイクリング、最後まで走りつづけたい、一方、ある方は観光したい、観戦も楽しみたい、そうしたデザインをはっきりしないと参加者の不満に繋がる。私が集めたのは、経験がある方、サイクリングしたかったという方を集めた、TDKはあくまできっかけ、本当にファンゾーンに行きたいか分からなかった、本音はもっとサイクリングしたかったかもしれない。これからどういうファン作るをするか、ツールド九州をきっかけにいろいろなツアー、初心者向け、ツーリズム向けを考えていかないといけない。レンタル、機材の問題はよく聞く話。180センチ以上に対応する自転車がない、関東関西で借りて九州で走るという話はよくある。あと、食べ物の問題、それも参加目的に拠るところが大きい。日本・九州に初めてきて観光メインであれば和食、国内在住の外国人で本当にスポーツ向けならいつでも和食は食べられる、そうであれば和食である必要はない。あと、今回のツアーに関しては、ファンゾーン(フィニッシュエリア観戦体験)は2日間でもよかった。1日は、途中のサイクリングコースで観戦できれば新鮮だった。サイクリストはファンゾーンにいてではなく、すぐに乗りたい。あと、ツアーは大会期間中だけに開催するのではなく、大会前や開催期間中、大会終了後でも開催するということがいいと思う。

山田大五郎氏 別の事業者と実施したツアーでも出てきたようなことがアンケート結果に出ていると思った。食事の問題は必ず出てくる、宿泊・食事は、高いところ(値段)を入れても変化をつける。レベルに関してでも変化をつけるべき、コースを分ける、グループを分けることも行う、サポートカーを後ろにつけて回収する(体制)も行う。走れるといっても3日目、4日目となると疲労度でレベルが変わる、ツアーにおいてバックアップは必要。

三好礼子氏 ツアー組む前からレベルどうするという話にはなっていた、今回は1パッケージしかなかったから仕方ない面はあった。レベルの問題は出ていた通り、コースをそれぞれ違うようにすべき。レンタルする自転車については事前に体格を聞く、体に合わない自転車に乗ることは危ない、アンケート事項に、食べ物、体格、自転車を持参するかレンタルするかこれをヒアリングしておくことで必ず改善できる。食事においては、タンパク質多めの料理にするという調整もできる、ホテルに事前に言っておけば対応してもらえる。コースは最初から自分でダウンロードしたい、写真スポットも欲しい、ここで撮りたいというのが事前に分かることで、参加者に想像させることができる。

近藤アマンディーヌ氏

自転車に乗る人は選手と同じコースを走らせると気持ちが入る、初心者向けには写真スポットがあった方がよい。

飯島誠氏

ツアー中のビデオはあった方がよかった、いろいろな国籍の方がバックボーンが違う中で参加いただいた、最終日に写真のスライドでもよいので記録映像を流す、初めてのグループだけど、ツアー全体の満足度・達成感は上がる。選手と同じコースを走るというのはより本レースの格も上がる、それに参加することが一般市民にとってはステータスとなる。参加型のツール・ド・九州になっていくのではないか。

ニック・サーズ氏

ファンゾーンの特典、スペシャリティがなかった、バックヤードツアー、チームの紹介、選手との写真撮影があれば特別感があったが、皆と一緒にだったので少し残念だった。サイクリングガイドはプロフェッショナルだったが、外国人ツアーの経験がどれくらいあるか分からない、コミュニケーションが不足していた。参加者へのアナウンスがあまりなかった、コースはどこまで行く、次のトイレの場所は、写真撮影、休憩ポイントは説明が不足していた。そして、日本の道路の法律、サイクルマナーの話がなかった、参加者からここは並列して走ってよいのかと聞かれても分からなかった。

大川内洋介氏

輸行支援、ワンストップサービスは今回が初仕事だった、貴重な経験だった。イン、アウトのときのオペレーションが非常に難しいと感じた、入国の時間がずれたらそれぞれ対応が必要、自転車をどこで組み立てたいかもある、空港で組み立てたら荷物を運ぶ必要がある、マンパワーをかけないと難しいと実感した。メカニックがつかないと、大事な自転車を預かる上でスムーズなオペレーションができない、今回は福岡の自転車店に的確なメカニックで対応した。中国の方2名は、モニタツアー翌日に熊本へ行ったが、(福岡で部品を買って)自転車修理もして、その後熊本まで走ってもらえた、貢献できたかなと思う。

山田大五朗氏

(九州中でも)輸行支援を行っているところはそんなにない、うち(Bike is Life)で出張の自転車修理は行っている。

三好礼子氏 熊本の道の駅阿蘇は、着替え場所やレンタサイクルもあり充実している。慣れたサイクリストは基本、ご自身でできることが多いが、ギアなど本当に問題が起きたときのサポート体制は大事であるが、荷物預かったり受け渡しするという面のサポート、ツアーの間後ろを走ってきて、着替えや補給食を入れておく、そういう対応をしておくといよい。

蓋奇雨氏 中国から4名とも自転車を持ってきた、今回のようなサービスは人数が増えると難しい、ニーズに合わせて実施できた。15人・20人のサイクルツアーで実施しようとしたら、イン、アウトの日は大型バスとトラック、間のサイクリングの日ではサポートカー。今回はとても親切な対応だった。10月、しまなみ海道に10名程度のゲストが来た、しまなみ海道はサイクリングをプッシュしていることもあり、空港出てすぐ修理スペースや更衣室もあった。環境整備ができています。

2.受入方策 実施報告 - 大会車列等からのレース観戦について

ニック・サーズ氏 見えなかった、前の車のバンパーぐらい、それ以上がない。自転車が見えないと乗る意味はない。写真も撮れなかった。

蓋奇雨氏 すごく期待したが、選手の様子が見えない。選手が準備するところやスタート前の様子を見ることができたのは良かった、途中で状況もわからなかった。このままスポンサーメリットで提供したらダメ

3.受入方策実施を終えて

三好礼子氏 飯島さんの解説がわかりやすかった、自転車初心者でもレース展開はわかった、初心者でもわかるレース情報。事前(に飯島さんが走られた)映像と情報をVTRに入れ込むと、観ていて(より情報が)入ってくる。事前の宣伝にも使える。多言語で聞ければ最高。(飯島さんの詳細な解説が)日本語だけというのは少し残念だった、(外国人の方は)聞きたかったと思う。

飯島誠氏 コースを実際にまわって下見するという経験はない、地元の話も自分の耳で聞くことで解説もイメージが湧いた。できれば、英語実況解説もやった方がよい、レースの魅力をより伝えることができる。

山田大五郎氏 ツアーが盛り上がることは素晴らしいこと、国内マーケットの成長なくして業界の発展はありえない、国内の循環が生まれないと海外に対応はできない、ツールド九州を象徴として(九州がサイクリングの聖地としての)土台ができればよい。

近藤アマンディーヌ氏 これからさらにいいイベントになると思う。

蓋奇雨氏 今回、日本人のインフルエンサーは起用したのか？ドローンは使ったのか？中国の話になるが、SNSを使って盛り上げる手段は常套。ツールド・九州のオフィシャルアカウントが写真ばかりでは距離が遠く感じる。中国のアカウントはフォロワー数がまだ3,000人とはいえ、今年9月開設したばかり。動画は100本以上出している。日本でもショート動画を数多く出していく、在日の外国人サイクリストにも訴求していく。オフィシャルアカウントだけでは物足りない、サイクリストに発信してもらうことで親近感が湧き、サイクリング仲間に広がっていく。ソーシャルメディアの時代、インスタに力を入れる方がより影響力が広がる。

飯島誠氏 ツールド・九州のオフィシャルアカウントでも、Bekiさんが大分とかで現地情報のショート動画をあげているのは見た、より近くに感じる。レース以外の部分にも踏み込んだ地域の情報で興味関心を持っていただくことは多分にある。

仲谷隆造 氏 SNSは一生懸命やっているが、他の方からもご指摘を受けた。SNSの動画が足りない、(今後は)オフィシャルでやる部分とインフルエンサーを使う部分、両方の力を使ってやっていく。

ニック・サーズ 氏 ツール・ド・九州はまだ2回目、昨年度は生でレースは観なかったが、今年会場にいてみてスケールが大きくてよかった。外国人が関東、関西、北海道からきて九州のサイクリングはすごいと言っていた、経験のあるサイクリストも最高の環境だと九州のポテンシャルを感じてくれた、ツール・ド・九州をフックに年中通して、ツアーとスポーツ(サイクリング)ができるようになればよい。

大坪元気 氏 参考になる意見をいただけた。2025大会の準備も始めている。観戦の仕方はコース設定の段階から条件が固まる、観てもらわないと成立しない、1回目2回目は人を集めることに注力したが、今度は自転車の面白さを伝える、わかりやすさが大事、コア層ではない層にいかにも面白さを分かりやすく伝えるか、日本の方でも海外の方でも共通。福岡の来年コースはその辺りは難しいコースになっている、人を集めるという点では。一方で、面白い仕掛けができれば、新しい形で楽しんでもらえるかと思う。今日いただいた意見を参考に工夫したい。

工藤健裕 氏 阿蘇当日は天気よかった、中国のインフルエンサーがルフィ像を巡って熊本の観光発信もしてもらった、まさにこういうことをやりたかった。来年度のコースも阿蘇で考えているが、お客さんをどう呼ぶかということも加味しながら、コース設定にも反映させたい。

4.今後の展開について

進藤昭洋 氏 貴重な意見を頂戴して感謝したい。実証事業はインバウンドの受入環境を整備するもの、実証事業は気づきを得るためにやるもの、来年度自走するためにはどのような課題があるのかを探るもの。この報告書や皆さんの発言は大変ありがたい、九州のサイクルツーリズムの発展、大会運営者にとっても気づきのあった内容だった、今後に活かして来年度もやりたいなど思っており、第二弾を実現させたい。ツール・ド・九州の盛り上げ、サイクルアイランド九州の魅力発信を全力でサポートしていきたい。

2.戦略会議④ 12/12 第四回戦略会議

《戦略会議の様子》



4.効果検証および今後の 展開について整理

4.効果検証および今後の展開について整理

本事業は、九州を代表するスポーツイベントのひとつである「ツール・ド・九州」の効果的な観戦手法及び情報発信手法を検証することで、ツール・ド・九州を訪日外国人旅行者にとってより魅力的なイベントに磨きあげ、その手法を似た形式の他スポーツイベントへの横展開を検討することで、「サイクルアイランド九州」ひいては「スポーツアイランド九州」を確立することを目的に実施した。受入方策の実施とアンケートの結果などから、設定したKPIについて結果を取りまとめた。

定量評価

【KPI①】 訪日外国人旅行者にとって、ツール・ド・九州が主目的のひとつとなるよう、国内外の外国人を対象にした大会の観戦企画やサイクリングモニターツアーを実施、80名目安に参加いただきアンケートを実施し、満足度70%以上を目標とする。



観戦企画とモニターツアーあわせて97名(大分:36名、熊本:10名、福岡:36名、モニターツアー:15名)に参加いただいた。参加者のアンケート結果によると、**90%以上が全体を通して満足したという結果を得られた。ツール・ド・九州の観戦体験は高い評価を得られたといえる。観戦環境を整えれば、外国人旅行者にとってより、魅力的なスポーツイベントとなる可能性がある。**

- モニター参加者の約80%が初めて自転車レースを観戦する人だったが、「自転車レースを観ながら飲食することはとても楽しい体験だった」「ワクワクした」「興味深いイベントだった」など、参加者の90%以上が全体を通すと満足したと回答、大半が好意的な意見。
- フードエリアについて約90%が満足したと回答した一方、導線や会場内、飲食ブースにおける英語表記の不備、不親切さを指摘する意見。
- 観戦者の約90%が自身もサイクリングを楽しみたいと回答。サイクリングを合わせた観戦提案は効果的と推察できる。

4.効果検証および今後の展開について整理

【KPI②】 大会の観戦企画やモニターツアー参加者に、自身のSNSなどで情報発信を促し、ツール・ド・九州および九州のサイクリング環境の認知度向上に繋げる。欧米やアジア圏など5か国以上の参加者の情報発信で、のべ30万回以上のリーチ獲得を目標とする。



10か国・32名(事務局確認分)の参加者が、自身のInstagramやYouTubeで観戦やツアーについて情報発信、ツアー参加者にフォロワー304万人を抱えるインフルエンサーがいたこともあり、**のべ100万回以上のリーチを獲得した。SNSを中心に国内外へツール・ド・九州や九州のサイクリング環境について情報発信、認知を広げることができた。**一方、参加者のアンケート結果によると、「大会の存在を知らなかった」「宣伝が足りない」という回答もみられ、大会前までの外国人に向けた効果的な情報発信が必要と考える。

- 主に国内在住者ではあるが、約20か国の人たちが観戦、国別では約半数の参加者がSNSなどで観戦体験について投稿。
- 戦略委員のニック・サーズ氏は、ツール・ド・九州開催数か月前から自身が運営するWebサイトやSNSで大会やサイクリング情報を発信。九州在住の外国人にも周知を広めた。

4.効果検証および今後の展開について整理

【KPI③】大分、熊本阿蘇、福岡の各ステージのレースを英語実況で生配信を行う。終了後、観戦企画やサイクリングモニターツアー参加者にアンケートを実施し、満足度70%以上を目標とする。



観戦企画やモニターツアー参加者のアンケート結果によると、**約60%が英語実況配信に満足と回答したものの目標には達しなかった。受入方策の有効な手法としてより多くの人に視聴してもらうためには、精度を上げることが重要と考える。**大分、熊本阿蘇、福岡3ステージあわせて英語実況配信は1.9万回視聴されている。(日本語実況配信は16万回)

- 英語実況配信で視聴したが、提供された情報は十分だったという意見。
- 一方、日本語実況・解説の直訳に、情報不足やニュアンスが伝わらないとの指摘、日本語とは別に、独自に英語の実況・解説が必要との意見も。

4.効果検証および今後の展開について整理

定性評価

- 【KPI①】九州においてサイクリングのゴールデンルートのひとつである大分、阿蘇コースのサイクリングを含むモニターツアーを実施。サイクリングにおける九州のポテンシャルについてアンケートをもって測る。



参加者のアンケート結果によると、「サイクリングの環境は素晴らしかった」「阿蘇周辺の自然が本当に美しかった」など、**景色やコースを称賛する声が大勢を占め、九州におけるサイクリング環境のポテンシャルの高さを裏付ける結果となった。**

- モニター参加者の90%以上が、サイクリングに満足したと回答。

- 【KPI②】九州においてサイクリング旅行する場合、宿泊は日本式の旅館を利用するケースが多くなることが想定される。外国人サイクリストにとって、旅館での寝食の満足度についてモニターツアーを実施し、アンケートを通して検証する。



参加者のアンケート結果によると、**部屋や風呂(温泉)については高い満足度を得られた方が多かった**一方、食事について「懐石料理ではサイクリストにとってカロリーが足りない」「食事制限の要望に对应してもらえなかった」など**不満の声が複数あった。食事については個人差が大きく、配慮が必要**という結果となった。

4.効果検証および今後の展開について整理

【KPI③】九州においてサイクリング旅行する場合、レンタサイクルを利用するケースが多くなることが想定される。外国人サイクリストにとって、満足度の高いギアを九州で提供できるのかモニターツアーを実施、アンケートを通して検証する。



今回は、ツアー参加者15名のうち6名がレンタサイクルを利用した。参加者のアンケート結果によると、特に身長185cmを超える体格の大きい欧米人から「自転車が小さすぎた」「サイズの合わない自転車に乗ると、けがをするおそれがある」など**不満の声が上がった**。事前に体型や希望する自転車のタイプについてヒアリングし、福岡、熊本の自転車店から**最適の自転車を探したが、結果的にはマッチする自転車を準備できなかった**。サイクルアイランド九州の確立に向けて、**ハード面の整備は不可欠という結果となった**。

【KPI④】九州には1台しかないサイクルバス「サイクルカーゴ」を利用してモニターツアーを実施。サイクルカーゴが呼び水になり、外国人サイクリストの増加に繋がるかアンケートの結果をもって検証する。



参加者のアンケート結果によると、「自分の自転車を持ち込むことができ、サイクルバスは本当に便利」「気分が悪くなってもバックアップ体制が整っていた」など好意的な声が多く、**サイクリングツアーにおいては有用性が高いと言え、今後、外国人旅行者を呼び込む大きなポテンシャルがある**。一方、参加者からは、サイクルカーゴを利用してツアーを組む際も、**サイクリングレベルが同等の人達でグループを組むことが肝要**であると今後参考にすべき意見が複数あった。

- 九州の素晴らしい自然の中で景色を楽しみながらサイクリングすること、そして、自転車を積んでバスで移動し、自分の自転車でサイクリングすることに高い満足度を感じる。

【本実証事業を基にした今後の展望(総論)】

ツール・ド・九州のスローガン「九州の持続可能な未来のために」であるように、本大会の役割の一つは、地域の活性化、中でも大会がもたらす観光効果の可視化である。戦略会議や受入方策を通じて、インバウンドをターゲットにしたコンテンツの造成やプログラムの策定には、外国人目線を取り入れた広い視野で臨むことが肝要であり、一方通行の発信であってはならない。ツール・ド・九州を訪日外国人旅行者にとってより魅力的なイベントにするためには、大会レース実況の完全副音声化などによる高付加価値の体験型観光コンテンツの受入環境づくり、SNSを活用した多面的、複合的な情報発信が必要である。以上のことについて、次頁以降に「各KPI評価から導き出されるもの」、「実証事業で抽出した課題」、「課題解決の方向性」として取りまとめた。また、大会自体の磨き上げによりインバウンド向け観光コンテンツへ昇華させるとともに、グローバルワイドなサイクリング環境の整備を進めることで多様な交流の活性化を目指す事ができ、「サイクルアイランド九州」、ひいては「スポーツアイランド九州」の確立に繋げることができると考える。

4.効果検証および今後の展開について整理

【効果検証・各KPI評価から導き出されるもの】

KPI:外国人対象の満足度(アンケート結果)

大会の観戦企画やサイクリングモニターツアー参加者の90%以上が全体を通して満足したという高い評価から、観戦環境を整えれば、ツール・ド・九州は外国人旅行者にとってより、魅力的なスポーツイベントとなる可能性がある。同様のスポーツイベントを開催する際、本実証事業同様に体験型の企画を併設することで、より魅力的なイベントとなる。

KPI:外国人の発信による情報の拡散

大会の観戦企画やサイクリングモニターツアー参加者の自身のSNS発信により、のべ100万回以上のリーチを獲得することができた。高コストの既存媒体よりもSNS情報の持つリアルさ、影響力、発信からリーチまでの伝わる速さ等を考えれば、SNSのコストパフォーマンスは非常に高いと言える。この事は同種イベントにおいて情報発信、PRについてのSNS戦略の重要性を示している。加えて、イベント当日のみならず、大会前の効果的な発信手法についても検討する必要がある。

KPI:外国人向け観戦環境整備～レース実況の多言語化の満足度

レース実況について、今回実施の日本語実況・解説の直訳では満足度を得られなかった。また、屋外レース観戦という環境下でモバイル端末上でYoutube視聴することのアンバランスさの指摘もあった。今後は翻訳ではない多言語による実況・解説が必要であり、観戦環境を考えた場合、会場内スクリーンと連動した多言語実況の投影が望ましい。

KPI:外国人対象の九州サイクリングの魅力、サイクリング環境、今後の展望

九州のサイクリング環境のポテンシャルは非常に高く、自然・風景に対する評価は非常に高い。但し、外国人サイクリストを受け入れる際、食事やレンタルギア、サイクリングレベルなど個々人に応じて対応することが肝要であり、グローバルスタンダードである多様性の受容を考慮すべきである。また、欧米人等の大きな体格のサイクリスト用のレンタルギアが不足しており、これは九州、日本全体のサイクルツーリズムの課題として捉え、何らかの対処が必要である。この事は、ランニングイベントなど同様の外国人参加型のスポーツイベントを催す際、同様の配慮が必要と言える。

実証事業で抽出した課題

- 大会観戦、サイクリングの価値・満足度向上のための環境整備
- ツール・ド・九州、九州サイクル環境の海外への多面的な情報発信
《以上、受入方策(Ⅱ)(Ⅲ)(Ⅳ)の参加者アンケート、第四回戦略会議議事メモから》
- 九州サイクリングの強みを活かすビジネスモデルの構築
- 国際スポーツツーリズム、サイクルツーリズム推進のための人材育成
《以上、受入方策(Ⅳ)の参加者アンケート、第四回戦略会議議事メモから》

課題解決の方向性

1. 高付加価値の体験型観光コンテンツの受入環境づくり

- 大会レース実況の完全副音声化。
 - ・受入方策(Ⅱ)(Ⅲ)参加者アンケート設問13・14、P83から
 - ・受入方策(Ⅳ)参加者アンケート設問11・12、P116から
- 会場内ビジョンにおける副音声のレース配信、観戦エリアにおける飲食ブースのミールサイネージや会場マップ・案内の英語表記の拡充など観戦環境の整備。
 - ・第四回戦略会議議事録 P119委員発言メモから
 - ・受入方策(Ⅱ)(Ⅲ)参加者アンケート設問12、17、P83から
 - ・受入方策(Ⅳ)参加者アンケート設問11、12、P116から
- 選手と観戦者が交流できるイベント演出。
 - ・受入方策(Ⅱ)(Ⅲ)参加者アンケート設問12、17から
 - ・第四回戦略会議議事録 P122委員発言メモから
- インバウンド対応サイクリングガイド育成等。
 - ・受入方策(Ⅳ)参加者アンケート設問7、P116から

2. ツール・ド・九州、体験型コンテンツの多面的、複合的な情報発信。

サイクルアイランド九州の魅力発信。

- 九州や首都圏在住の外国人インフルエンサーを起用し、大会前までにツール・ド・九州の見どころや楽しみ方、九州のサイクリング環境を発信。ショート動画を活用した効果的なSNS展開。
 - ・受入方策(Ⅱ)(Ⅲ)参加者アンケート設問17から
 - ・受入方策(Ⅱ)P56～P61、受入方策(Ⅳ)P93～P99から
 - ・第二回戦略会議P29委員発言メモから
 - ・第四回戦略会議P124委員発言メモから
- 欧米やアジア圏で影響力のあるサイクル専門誌やWeb媒体で九州の魅力あるサイクリングルートを紹介。
- 漫画・アニメの聖地が多い九州で、自転車関連アニメとコラボレーションした大会情報や九州サイクリングルートの紹介。

3. サイクルツーリズム推進と九州サイクリングの魅力発信

- 定番化に向けたサイクリング商品の流通パイロットモデルの実践。
- グローバルワイドなインバウンドを想定したサイクリング環境の整備。レンタルギアやミールコントロール、参加者のサイクリングレベルに配慮した高付加価値な商品提供に向けて、九州内のレンタサイクル店や宿泊施設、発地の関係会社・団体、地元行政との連携。
 - ・受入方策(Ⅳ)参加者アンケート設問7、8、P116から
 - ・第三回戦略会議P37戦略会議メンバー発言メモから
 - ・第四回戦略会議P122戦略会議メンバー発言メモから